

# 2024年度 教科シラバス

## 高校2年

### 目次

|                     |    |                           |    |
|---------------------|----|---------------------------|----|
| 古典探究（S特選文系）・・・      | 2  | 体育・・・                     | 26 |
| 古典探究（I類文系）・・・       | 3  | 保健・・・                     | 27 |
| 古典探究（II類文系）・・・      | 4  | 音楽I・・・                    | 28 |
| 現代文（S特選文系）・・・       | 5  | 美術I・・・                    | 29 |
| 現代文（I類文系）・・・        | 6  | 書道I・・・                    | 30 |
| 現代文（II類文系）・・・       | 7  | 英語コミュニケーションII（S特選文系理系）・・・ | 31 |
| 国語演習（S特選理系）・・・      | 8  | 英語コミュニケーションII（I類文系理系）・・・  | 32 |
| 国語演習（I類理系）・・・       | 9  | 英語コミュニケーションII（II類文系理系）・・・ | 33 |
| 国語演習（II類理系）・・・      | 10 | 論理・表現II（S特選文系理系）・・・       | 34 |
| 地理総合（S特選文系理系）・・・    | 11 | 論理・表現II（I類文系理系）・・・        | 35 |
| 地理総合（I類文系理系）・・・     | 12 | 論理・表現II（II類文系理系）・・・       | 36 |
| 地理総合（II類文系理系）・・・    | 13 | 情報I・・・                    | 37 |
| 世界史探究（S特選文系）・・・     | 14 |                           |    |
| 世界史探究（I類II類文系）・・・   | 15 |                           |    |
| 日本史探究（S特選文系）・・・     | 16 |                           |    |
| 日本史探究（I類II類文系）・・・   | 17 |                           |    |
| 数学II（S特選I類II類文系）・・・ | 18 |                           |    |
| 数学II（S特選I類II類理系）・・・ | 19 |                           |    |
| 数学B（S特選I類II類文系）・・・  | 20 |                           |    |
| 数学B（S特選I類II類理系）・・・  | 21 |                           |    |
| 物理（S特選I類II類理系）・・・   | 22 |                           |    |
| 化学基礎（S特選I類II類理系）・・・ | 23 |                           |    |
| 生物（S特選I類II類理系）・・・   | 24 |                           |    |
| 地学基礎（S特選I類II類文系）・・・ | 25 |                           |    |

| 学年   | 教科 | 科目   | コース         | 単位数 | 使用教科書・副教材   |
|------|----|------|-------------|-----|---|
| 高校2年 | 国語 | 古典探究 | S特選<br>(文系) | 3   | 「高等学校古典探究」(数研出版) 「体系古典文法」「体系古典文法ワーク」「まぎらわしい語の識別マスターノート」(数研出版)<br>「重要古文単語315」(桐原書店) 「力をつける古典2」(数研出版) 「基本セミナー漢文入門」「例文による漢文の習得」(浜島書店) 「新訂国語総覧」(京都書房) |

教科・科目の概要と目標

学習方法と流れ

○言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。

1. 古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方や感じ方、考え方の幅を広げ、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。
2. 国公立大学受験を見据えた記述指導や演習を積極的に行い、確かな実践力を培う。

1. 文法の学習においては、予習として文法書の該当部分を熟読しておくこと。適宜問題演習を行い、知識の定着をはかること。
2. 古文読解の学習においては、予習として本文をノートに書き写し、読み・単語の意味・品詞を確認しておくこと。
3. 漢文読解の学習においては、予習として本文をノートに書き写し、読み・単語の意味・句法を確認しておくこと。
4. 古文単語文法テスト・漢文句法テストを通して、一つ一つ着実に覚えていくこと。

|           | 1学期始め～1学期中間   | 1学期中間～1学期期末   | 2学期始め～2学期中間   | 2学期中間～2学期期末  | 3学期始め～3学期期末  |
|-----------|---|---|---|--|--|
| 1年間の授業の進度 | 【古文教材】 説話 『十訓抄』<br>【古文文法】 助詞<br>【漢文教材】 故事・逸話<br>【漢文句法】 否定・疑問・反語 | 【古文教材】 物語 『更級日記』<br>【古文文法】 まぎらわしい語の識別<br>【漢文教材】 漢詩(古体詩を中心に)・『論語』<br>【漢文句法】 漢詩のきまり | 【古文教材】 物語 『源氏物語』<br>【古文文法】 敬語<br>【漢文教材】 思想『莊子』<br>【漢文句法】 使役・受身・比較 | 【古文教材】 随筆『方丈記』<br>【古文文法】 総復習<br>【漢文教材】 史伝『史記』<br>【漢文句法】 仮定・累加・抑揚 | 【古文教材】 歴史物語 『大鏡』<br>【古文文法】 総復習<br>【漢文教材】 文章(「第一章」の中から)<br>【漢文句法】 総復習 |

| 観点別評価             | 評価の観点  | 評価の方法                              |
|-------------------|--|------------------------------------|
| 知識技能              | ①生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けられている。<br>②日本の伝統的な言語文化に対する理解を深められている。  | 授業内小テスト(単語・文法・漢文句形・漢文語彙など)<br>定期考査 |
| 思考力<br>判断力<br>表現力 | ①論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力が伸長している。<br>②古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができている。         | 定期考査                               |
| 主体的に学習に取り組む態度     | ①言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。<br>②生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させようという意識が見られる。<br>③日本の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。 | 課題<br>グループワークまたは個人ワーク              |

| 学年   | 教科 | 科目   | コース        | 単位数 | 使用教科書・副教材   |
|------|----|------|------------|-----|---|
| 高校2年 | 国語 | 古典探究 | I類<br>(文系) | 3   | 「高等学校古典探究」(数研出版) 「体系古典文法」「体系古典文法ワーク」「まぎらわしい語の識別マスターノート」(数研出版)<br>「重要古文単語315」(桐原書店) 「力をつける古典2」(数研出版) 「基本セミナー漢文入門」「例文による漢文の習得」(浜島書店) 「新訂国語総覧」(京都書房) |

教科・科目の概要と目標

学習方法と流れ

○言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。

1. 古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方や感じ方、考え方の幅を広げ、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。
2. 国公立大学受験を見据えた記述指導や演習を積極的に行い、確かな実践力を培う。

1. 文法の学習においては、予習として文法書の該当部分を熟読しておくこと。適宜問題演習を行い、知識の定着をはかること。
2. 古文読解の学習においては、予習として本文をノートに書き写し、読み・単語の意味・品詞を確認しておくこと。
3. 漢文読解の学習においては、予習として本文をノートに書き写し、読み・単語の意味・句法を確認しておくこと。
4. 古文単語文法テスト・漢文句法テストを通して、一つ一つ着実に覚えていくこと。

|           | I学期始め～I学期中間   | I学期中間～I学期期末   | 2学期始め～2学期中間   | 2学期中間～2学期期末  | 3学期始め～3学期期末  |
|-----------|---|---|---|--|--|
| 1年間の授業の進度 | 【古文教材】 説話 『十訓抄』<br>【古文文法】 助詞<br>【漢文教材】 故事・逸話<br>【漢文句法】 否定・疑問・反語 | 【古文教材】 物語 『更級日記』<br>【古文文法】 まぎらわしい語の識別<br>【漢文教材】 漢詩(古体詩を中心に)・『論語』<br>【漢文句法】 漢詩のきまり | 【古文教材】 物語 『源氏物語』<br>【古文文法】 敬語<br>【漢文教材】 思想『莊子』<br>【漢文句法】 使役・受身・比較 | 【古文教材】 随筆『方丈記』<br>【古文文法】 総復習<br>【漢文教材】 史伝『史記』<br>【漢文句法】 仮定・累加・抑揚 | 【古文教材】 歴史物語 『大鏡』<br>【古文文法】 総復習<br>【漢文教材】 文章(「第一章」の中から)<br>【漢文句法】 総復習 |

| 観点別評価                     | 評価の観点  | 評価の方法                              |
|---------------------------|--|------------------------------------|
| 知識技能                      | ①生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けられている。<br>②日本の伝統的な言語文化に対する理解を深められている。  | 授業内小テスト(単語・文法・漢文句形・漢文語彙など)<br>定期考査 |
| 思考力<br>判断力<br>表現力         | ①論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力が伸長している。<br>②古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができている。         | 定期考査                               |
| 主体的に<br>学習に<br>取り組む<br>態度 | ①言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。<br>②生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させようという意識が見られる。<br>③日本の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。 | 課題<br>グループワークまたは個人ワーク              |

| 学年   | 教科 | 科目   | コース        | 単位数 | 使用教科書・副教材   |
|------|----|------|------------|-----|---|
| 高校2年 | 国語 | 古典探究 | Ⅱ類<br>(文系) | 3   | 「高等学校古典探究」(数研出版) 「体系古典文法」「体系古典文法ワーク」「まぎらわしい語の識別マスターノート」(数研出版)<br>「重要古文単語315」(桐原書店) 「力をつける古典2」(数研出版) 「基本セミナー漢文入門」「例文による漢文の習得」(浜島書店) 「新訂国語総覧」(京都書房) |

| 教科・科目の概要と目標  | 学習方法と流れ  |
|--|--|
| <p>○言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。</p> <p>1. 古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方や感じ方、考え方の幅を広げ、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。</p> <p>2. 国公立大学受験を見据えた記述指導や演習を積極的に行い、確かな実践力を培う。</p> | <p>1. 文法の学習においては、予習として文法書の該当部分を熟読しておくこと。適宜問題演習を行い、知識の定着をはかること。</p> <p>2. 古文読解の学習においては、予習として本文をノートに書き写し、読み・単語の意味・品詞を確認しておくこと。</p> <p>3. 漢文読解の学習においては、予習として本文をノートに書き写し、読み・単語の意味・句法を確認しておくこと。</p> <p>4. 古文単語文法テスト・漢文句法テストを通して、一つ一つ着実に覚えていくこと。</p> |

|           | 1学期始め～1学期中間   | 1学期中間～1学期期末   | 2学期始め～2学期中間   | 2学期中間～2学期期末  | 3学期始め～3学期期末  |
|-----------|---|---|---|--|--|
| 1年間の授業の進度 | 【古文教材】 説話 『十訓抄』<br>【古文文法】 助詞<br>【漢文教材】 故事・逸話<br>【漢文句法】 否定・疑問・反語 | 【古文教材】 物語 『更級日記』<br>【古文文法】 まぎらわしい語の識別<br>【漢文教材】 漢詩(古体詩を中心に)・『論語』<br>【漢文句法】 漢詩のきまり | 【古文教材】 物語 『源氏物語』<br>【古文文法】 敬語<br>【漢文教材】 思想『莊子』<br>【漢文句法】 使役・受身・比較 | 【古文教材】 随筆『方丈記』<br>【古文文法】 総復習<br>【漢文教材】 史伝『史記』<br>【漢文句法】 仮定・累加・抑揚 | 【古文教材】 歴史物語 『大鏡』<br>【古文文法】 総復習<br>【漢文教材】 文章(「第一章」の中から)<br>【漢文句法】 総復習 |

| 観点別評価             | 評価の観点  | 評価の方法                              |
|-------------------|--|------------------------------------|
| 知識技能              | ①生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けられている。<br>②日本の伝統的な言語文化に対する理解を深められている。  | 授業内小テスト(単語・文法・漢文句形・漢文語彙など)<br>定期考査 |
| 思考力<br>判断力<br>表現力 | ①論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力が伸長している。<br>②古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができている。         | 定期考査                               |
| 主体的に学習に取り組む態度     | ①言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。<br>②生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させようという意識が見られる。<br>③日本の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。 | 課題<br>グループワークまたは個人ワーク              |

| 学年   | 教科 | 科目  | コース         | 単位数 | 使用教科書・副教材   |
|------|----|-----|-------------|-----|---|
| 高校2年 | 国語 | 現代文 | S特選<br>(文系) | 2   | 精選論理国語(数研出版) 文学国語(数研出版)<br>「書いてマスター常用漢字」(文英堂)<br>「読解を深める現代文単語」(桐原書店)<br>「LT現代文3」(浜島書店) 「上級現代文I」(桐原書店)<br>「新訂国語総覧」(京都書房) |

教科・科目の概要と目標

学習方法と流れ

|   |   |
|---|---|
| <p>○言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。</p> <p>①近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語力の向上を図り、効果的に活用できるようにする。</p> <p>②論理の展開や要旨を的確に捉える。</p> <p>③物事に対する考え方を深める。</p> <p>④国公立大学受験を見据えた記述や演習を通して、確かな基礎力と実践力を培う。</p> | <p>1、現代文読解の学習においては、予習として読み・単語の意味・段落を確認しておくこと。</p> <p>2、現代文漢字テスト・現代文語彙テストを通して、一つ一つ覚えていくこと。</p> |
|---|---|

|           | I学期始め～I学期中間   | I学期中間～I学期期末  | 2学期始め～2学期中間  | 2学期中間～2学期期末  | 3学期始め～3学期期末   |
|-----------|---|--|--|--|---|
| 1年間の授業の進度 | <p>【評論】 学問の発見…思想</p> <p>【評論】 「具体」から「抽象」へ…言語</p> <p>【読書課題】 『海と毒薬』 遠藤周作</p> | <p>【評論】 未来世代への責任…社会</p> <p>【小説】 「山月記」</p> <p>【読書課題】 『李陵』 中島敦</p> | <p>【詩歌】 「永訣の朝」</p> <p>【評論】 「科学・技術の歴史の中での社会」…科学</p> <p>【読書課題】 『こころ(上・中)』 夏目漱石</p> | <p>【小説】 「こころ」</p> <p>【評論】 国境を超える言葉…言語</p> <p>【読書課題】 『現代日本の開化』 夏目漱石</p> | <p>【詩歌】 「俳句」・言語活動</p> <p>【評論】 「いき」の美学…芸術</p> <p>【読書課題】 『蠅』 横光利一<br/>『クリーム』 村上春樹</p> |

| 観点別評価             | 評価の観点   | 評価の方法                               |
|-------------------|---|-------------------------------------|
| 知識技能              | <p>①実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。</p> <p>②新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深められている。</p> <p>③生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、日本の言語文化に対する理解を深めることができる。</p>              | <p>授業内小テスト(漢字・語彙など)</p> <p>定期考査</p> |
| 思考力<br>判断力<br>表現力 | <p>①論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養っている。</p> <p>②他者(作品含む)との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。</p> <p>③深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養っている。</p> | <p>定期考査</p>                         |
| 主体的に学習に取り組む態度     | <p>①言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。</p> <p>②生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させようという意識がみられる。</p> <p>③日本の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。</p>                       | <p>課題</p> <p>グループワークまたは個人ワーク</p>    |

| 学年   | 教科 | 科目  | コース        | 単位数 | 使用教科書・副教材   |
|------|----|-----|------------|-----|---|
| 高校2年 | 国語 | 現代文 | I類<br>(文系) | 2   | 「精選論理国語」(数研出版) 「文学国語」(数研出版)<br>「書いてマスター常用漢字」(文英堂)<br>「読解を深める現代文単語」(桐原書店)<br>「LT現代文3」(浜島書店) 「上級現代文I」(桐原書店)<br>「新訂国語総覧」(京都書房) |

| 教科・科目の概要と目標   | 学習方法と流れ   |
|---|---|
| <p>○言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。</p> <p>①近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語力の向上を図り、効果的に活用できるようにする。</p> <p>②論理の展開や要旨を的確に捉える。</p> <p>③物事に対する考え方を深める。</p> <p>④国公立大学受験を見据えた記述や演習を通して、確かな基礎力と実践力を培う。</p> | <p>1、現代文読解の学習においては、予習として読み・単語の意味・段落を確認しておくこと。</p> <p>2、現代文漢字テスト・現代文語彙テストを通して、一つ一つ覚えていくこと。</p> |

|           | I学期始め～I学期中間   | I学期中間～I学期期末  | 2学期始め～2学期中間  | 2学期中間～2学期期末  | 3学期始め～3学期期末   |
|-----------|---|--|--|--|---|
| 1年間の授業の進度 | <p>【評論】 学問の発見…思想</p> <p>【評論】 「具体」から「抽象」へ…言語</p> <p>【読書課題】 『海と毒薬』 遠藤周作</p> | <p>【評論】 未来世代への責任…社会</p> <p>【小説】 「山月記」</p> <p>【読書課題】 『李陵』 中島敦</p> | <p>【詩歌】 「永訣の朝」</p> <p>【評論】 「科学・技術の歴史の中での社会」…科学</p> <p>【読書課題】 『こころ(上・中)』 夏目漱石</p> | <p>【小説】 「こころ」</p> <p>【評論】 国境を超える言葉…言語</p> <p>【読書課題】 『現代日本の開化』 夏目漱石</p> | <p>【詩歌】 「俳句」・言語活動</p> <p>【評論】 「いき」の美学…芸術</p> <p>【読書課題】 『蠅』 横光利一<br/>『クリーム』 村上春樹</p> |

| 観点別評価                     | 評価の観点   | 評価の方法                    |
|---------------------------|---|--------------------------|
| 知識技能                      | <p>①実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。</p> <p>②新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深められている。</p> <p>③生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、日本の言語文化に対する理解を深めることができる。</p>              | 授業内小テスト(漢字・語彙など)<br>定期考査 |
| 思考力<br>判断力<br>表現力         | <p>①論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養っている。</p> <p>②他者(作品含む)との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。</p> <p>③深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養っている。</p> | 定期考査                     |
| 主体的に<br>学習に<br>取り組む<br>態度 | <p>①言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。</p> <p>②生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させようという意識がみられる。</p> <p>③日本の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。</p>                       | 課題<br>グループワークまたは個人ワーク    |

| 学年   | 教科 | 科目  | コース        | 単位数 | 使用教科書・副教材   |
|------|----|-----|------------|-----|---|
| 高校2年 | 国語 | 現代文 | Ⅱ類<br>(文系) | 2   | 「精選論理国語」(数研出版) 「文学国語」(数研出版)<br>「書いてマスター常用漢字」(文英堂)<br>「読解を深める現代文単語」(桐原書店)<br>「LT現代文3」(浜島書店) 「新訂国語総覧」(京都書房) |

| 教科・科目の概要と目標   | 学習方法と流れ   |
|---|---|
| <p>○言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。</p> <p>①近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語力の向上を図り、効果的に活用できるようにする。</p> <p>②論理の展開や要旨を的確に捉える。</p> <p>③物事に対する考え方を深める。</p> <p>④国公立大学受験を見据えた記述や演習を通して、確かな基礎力と実践力を培う。</p> | <p>1、現代文読解の学習においては、予習として読み・単語の意味・段落を確認しておくこと。</p> <p>2、現代文漢字テスト・現代文語彙テストを通して、一つ一つ覚えていくこと。</p> |

|           | 1学期始め～1学期中間   | 1学期中間～1学期期末  | 2学期始め～2学期中間   | 2学期中間～2学期期末   | 3学期始め～3学期期末   |
|-----------|---|--|---|---|---|
| 1年間の授業の進度 | <p>【評論】 学問の発見…思想</p> <p>【評論】 「具体」から「抽象」へ…言語</p> <p>【読書課題】 『海と毒薬』 遠藤周作</p> | <p>【評論】 未来世代への責任…社会</p> <p>【小説】 「山月記」</p> <p>【読書課題】 『李陵』 中島敦</p> | <p>【詩歌】 「永訣の朝」</p> <p>【評論】 「科学・技術の歴史の中での社会」…科学</p> <p>【読書課題】 『ころ(上・中)』 夏目漱石</p> | <p>【小説】 「ころ」</p> <p>【評論】 国境を超える言葉…言語</p> <p>【読書課題】 『現代日本の開化』 夏目漱石</p> | <p>【詩歌】 「俳句」・言語活動</p> <p>【評論】 「いき」の美学…芸術</p> <p>【読書課題】 『蠅』 横光利一<br/>『クリーム』 村上春樹</p> |

| 観点別評価                     | 評価の観点   | 評価の方法                    |
|---------------------------|---|--------------------------|
| 知識技能                      | <p>①実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。</p> <p>②新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深められている。</p> <p>③生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、日本の言語文化に対する理解を深めることができる。</p>              | 授業内小テスト(漢字・語彙など)<br>定期考査 |
| 思考力<br>判断力<br>表現力         | <p>①論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養っている。</p> <p>②他者(作品含む)との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。</p> <p>③深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養っている。</p> | 定期考査                     |
| 主体的に<br>学習に<br>取り組む<br>態度 | <p>①言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。</p> <p>②生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させようという意識がみられる。</p> <p>③日本の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。</p>                       | 課題<br>グループワークまたは個人ワーク    |

| 学年   | 教科 | 科目   | コース         | 単位数 | 使用教科書・副教材  |
|------|----|------|-------------|-----|--|
| 高校2年 | 国語 | 国語演習 | S特選<br>(理系) | 3   | 「精選論理国語」「文学国語」「高等学校古典探究」(数研出版)<br>「書いてマスター常用漢字」(文英堂) 「読解を深める現代文単語」(桐原書店) 「LT現代文3」(浜島書店)<br>「体系古典文法」「体系古典文法ワーク」「まぎらわしい語の識別マスターノート」(数研出版) 「重要古文単語315」(桐原書店) 「力をつける古典2」(数研出版) 「基本セミナー漢文入門」「例文による漢文の習得」(浜島書店) 「新訂国語総覧」(京都書房) |

| 教科・科目の概要と目標  | 学習方法と流れ   |
|--|---|
| <p>○言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。</p> <p>【現代文】<br/>近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方や考え方を深め、進んで読書することによって、国語力の向上を図る。</p> <p>【古典】<br/>古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方や考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。</p> | <p>1、現代文読解の学習においては、予習として読み・単語の意味・段落を確認しておくこと。</p> <p>2、文法の学習においては、予習として文法書の該当部分を熟読しておくこと。適宜問題演習を行い、知識の定着をはかること。</p> <p>3、古文読解の学習においては、予習として本文をノートに書き写し、読み・単語の意味・品詞を確認しておくこと。</p> <p>4、漢文読解の学習においては、予習として本文をノートに書き写し、読み・単語の意味・句法を確認しておくこと。</p> <p>5、漢字テスト・現代文語彙テスト・古文単語テスト・古典文法テスト・漢文句法テストをとおして、一つ一つ覚えていくこと。</p> |

|           | 1学期始め～1学期中間   | 1学期中間～1学期期末   | 2学期始め～2学期中間  | 2学期中間～2学期期末   | 3学期始め～3学期期末   |
|-----------|---|---|--|---|---|
| 1年間の授業の進度 | <p>【現代文】 学問の発見…思想</p> <p>【古文】 「十訓抄」</p> <p>【漢文】 句法</p> <p>【読書課題】</p> <p>『海と毒薬』 遠藤周作</p> | <p>【現代文】 「山月記」</p> <p>【古文】 文法 (助詞)</p> <p>【漢文】 漢詩</p> <p>【読書課題】</p> <p>『李陵』 中島敦</p> | <p>【古文】 「源氏物語」</p> <p>【漢文】 「四面楚歌」</p> <p>【読書課題】</p> <p>『ころも(上・中)』 夏目漱石</p> | <p>【現代文】 「ころも」</p> <p>国境を超える言葉</p> <p>…言語</p> <p>【読書課題】</p> <p>『現代日本の開化』 夏目漱石</p> | <p>【現代文】 「『いき』の美学」</p> <p>…芸術</p> <p>【古文】 問題演習</p> <p>【漢文】 思想 (道家)</p> <p>【読書課題】</p> <p>『蠅』 横光利一</p> <p>『クリーム』 村上春樹</p> |

| 観点別評価             | 評価の観点  | 評価の方法                            |
|-------------------|--|----------------------------------|
| 知識技能              | <p>①実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。</p> <p>②新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深められている。</p> <p>③生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、日本の言語文化に対する理解を深めることができる。</p> <p>④日本の伝統的な言語文化に対する理解を深められている。</p>  | <p>授業内小テスト</p> <p>定期考査</p>       |
| 思考力<br>判断力<br>表現力 | <p>①論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養っている。</p> <p>②他者(作品含む)との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができている。</p> <p>③深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養っている。</p> <p>④深く共感したり豊かに想像したりする力が伸長している。</p> <p>⑤古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができている。</p> | <p>定期考査</p>                      |
| 主体的に学習に取り組む態度     | <p>①言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。</p> <p>②生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させようという意識がみられる。</p> <p>③日本の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。</p>  | <p>課題</p> <p>グループワークまたは個人ワーク</p> |

| 学年   | 教科 | 科目   | コース        | 単位数 | 使用教科書・副教材  |
|------|----|------|------------|-----|--|
| 高校2年 | 国語 | 国語演習 | I類<br>(理系) | 3   | 「精選論理国語」「文学国語」「高等学校古典探究」(数研出版)<br>「書いてマスター常用漢字」(文英堂) 「読解を深める現代文単語」(桐原書店) 「LT現代文3」(浜島書店)<br>「体系古典文法」「体系古典文法ワーク」「まぎらわしい語の識別マスターノート」(数研出版) 「重要古文単語315」(桐原書店) 「力をつける古典2」(数研出版) 「基本セミナー漢文入門」「例文による漢文の習得」(浜島書店) 「新訂国語総覧」(京都書房) |

| 教科・科目の概要と目標  | 学習方法と流れ   |
|--|---|
| <p>○言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。</p> <p>【現代文】<br/>近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方や考え方を深め、進んで読書することによって、国語力の向上を図る。</p> <p>【古典】<br/>古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方や考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。</p> | <p>1、現代文読解の学習においては、予習として読み・単語の意味・段落を確認しておくこと。</p> <p>2、文法の学習においては、予習として文法書の該当部分を熟読しておくこと。適宜問題演習を行い、知識の定着をはかること。</p> <p>3、古文読解の学習においては、予習として本文をノートに書き写し、読み・単語の意味・品詞を確認しておくこと。</p> <p>4、漢文読解の学習においては、予習として本文をノートに書き写し、読み・単語の意味・句法を確認しておくこと。</p> <p>5、漢字テスト・現代文語彙テスト・古文単語テスト・古典文法テスト・漢文句法テストをとおして、一つ一つ覚えていくこと。</p> |

|           | I学期始め～I学期中間   | I学期中間～I学期期末   | 2学期始め～2学期中間  | 2学期中間～2学期期末   | 3学期始め～3学期期末   |
|-----------|---|---|--|---|---|
| 1年間の授業の進度 | <p>【現代文】 学問の発見…思想</p> <p>【古文】 「十訓抄」</p> <p>【漢文】 句法</p> <p>【読書課題】</p> <p>『海と毒薬』 遠藤周作</p> | <p>【現代文】 「山月記」</p> <p>【古文】 文法 (助詞)</p> <p>【漢文】 漢詩</p> <p>【読書課題】</p> <p>『李陵』 中島敦</p> | <p>【古文】 「源氏物語」</p> <p>【漢文】 「四面楚歌」</p> <p>【読書課題】</p> <p>『こころ(上・中)』 夏目漱石</p> | <p>【現代文】 「こころ」</p> <p>国境を超える言葉</p> <p>…言語</p> <p>【読書課題】</p> <p>『現代日本の開化』 夏目漱石</p> | <p>【現代文】 「『いき』の美学」</p> <p>…芸術</p> <p>【古文】 問題演習</p> <p>【漢文】 思想 (道家)</p> <p>【読書課題】</p> <p>『蠅』 横光利一</p> <p>『クリーム』 村上春樹</p> |

| 観点別評価             | 評価の観点  | 評価の方法                            |
|-------------------|--|----------------------------------|
| 知識技能              | <p>①実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。</p> <p>②新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深められている。</p> <p>③生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、日本の言語文化に対する理解を深めることができる。</p> <p>④日本の伝統的な言語文化に対する理解を深められている。</p>  | <p>授業内小テスト</p> <p>定期考査</p>       |
| 思考力<br>判断力<br>表現力 | <p>①論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養っている。</p> <p>②他者(作品含む)との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができている。</p> <p>③深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養っている。</p> <p>④深く共感したり豊かに想像したりする力が伸長している。</p> <p>⑤古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができている。</p> | <p>定期考査</p>                      |
| 主体的に学習に取り組む態度     | <p>①言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。</p> <p>②生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させようという意識がみられる。</p> <p>③日本の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。</p>  | <p>課題</p> <p>グループワークまたは個人ワーク</p> |

| 学年   | 教科 | 科目   | コース        | 単位数 | 使用教科書・副教材  |
|------|----|------|------------|-----|--|
| 高校2年 | 国語 | 国語演習 | Ⅱ類<br>(理系) | 3   | 「精選論理国語」「文学国語」「高等学校古典探究」(数研出版)<br>「書いてマスター常用漢字」(文英堂) 「読解を深める現代文単語」(桐原書店) 「LT現代文3」(浜島書店)<br>「体系古典文法」「体系古典文法ワーク」「まぎらわしい語の識別マスターノート」(数研出版) 「重要古文単語315」(桐原書店) 「力をつける古典2」(数研出版) 「基本セミナー漢文入門」「例文による漢文の習得」(浜島書店) 「新訂国語総覧」(京都書房) |

| 教科・科目の概要と目標  | 学習方法と流れ   |
|--|---|
| <p>○言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。</p> <p>【現代文】<br/>近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方や考え方を深め、進んで読書することによって、国語力の向上を図る。</p> <p>【古典】<br/>古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方や考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。</p> | <p>1、現代文読解の学習においては、予習として読み・単語の意味・段落を確認しておくこと。</p> <p>2、文法の学習においては、予習として文法書の該当部分を熟読しておくこと。適宜問題演習を行い、知識の定着をはかること。</p> <p>3、古文読解の学習においては、予習として本文をノートに書き写し、読み・単語の意味・品詞を確認しておくこと。</p> <p>4、漢文読解の学習においては、予習として本文をノートに書き写し、読み・単語の意味・句法を確認しておくこと。</p> <p>5、漢字テスト・現代文語彙テスト・古文単語テスト・古典文法テスト・漢文句法テストをとおして、一つ一つ覚えていくこと。</p> |

|           | 1学期始め～1学期中間   | 1学期中間～1学期期末   | 2学期始め～2学期中間  | 2学期中間～2学期期末   | 3学期始め～3学期期末   |
|-----------|---|---|--|---|---|
| 1年間の授業の進度 | <p>【現代文】 学問の発見…思想</p> <p>【古文】 「十訓抄」</p> <p>【漢文】 句法</p> <p>【読書課題】</p> <p>『海と毒薬』 遠藤周作</p> | <p>【現代文】 「山月記」</p> <p>【古文】 文法 (助詞)</p> <p>【漢文】 漢詩</p> <p>【読書課題】</p> <p>『李陵』 中島敦</p> | <p>【古文】 「源氏物語」</p> <p>【漢文】 「四面楚歌」</p> <p>【読書課題】</p> <p>『こころ(上・中)』 夏目漱石</p> | <p>【現代文】 「こころ」</p> <p>国境を超える言葉</p> <p>…言語</p> <p>【読書課題】</p> <p>『現代日本の開化』 夏目漱石</p> | <p>【現代文】 「『いき』の美学」</p> <p>…芸術</p> <p>【古文】 問題演習</p> <p>【漢文】 思想 (道家)</p> <p>【読書課題】</p> <p>『蠅』 横光利一</p> <p>『クリーム』 村上春樹</p> |

| 観点別評価             | 評価の観点  | 評価の方法                            |
|-------------------|--|----------------------------------|
| 知識技能              | <p>①実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。</p> <p>②新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深められている。</p> <p>③生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、日本の言語文化に対する理解を深めることができる。</p> <p>④日本の伝統的な言語文化に対する理解を深められている。</p>  | <p>授業内小テスト</p> <p>定期考査</p>       |
| 思考力<br>判断力<br>表現力 | <p>①論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養っている。</p> <p>②他者(作品含む)との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができている。</p> <p>③深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養っている。</p> <p>④深く共感したり豊かに想像したりする力が伸長している。</p> <p>⑤古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができている。</p> | <p>定期考査</p>                      |
| 主体的に学習に取り組む態度     | <p>①言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。</p> <p>②生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させようという意識がみられる。</p> <p>③日本の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。</p>  | <p>課題</p> <p>グループワークまたは個人ワーク</p> |

| 学年   | 教科   | 科目   | コース                 | 単位数 | 使用教科書・副教材   |
|------|------|------|---------------------|-----|---|
| 高校2年 | 地理歴史 | 地理総合 | S特選<br>(文系)<br>(理系) | 2   | 『地理総合』(東京書籍)<br>新詳高等地図(帝国書院)<br>新詳地理資料COMPLETE 2024(帝国書院) |

| 教科・科目の概要と目標  | 学習方法と流れ  |
|--|--|
| <p>地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けます。地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養います。地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするこの大切さについての自覚などを深めます。</p> | <p>1. 予習…範囲の教科書を熟読する。<br/>2. 授業中の取り組み…①板書をノートに書き写す。②教師の説明をノートに書き記しておく。③プリントは授業に沿って適宜書き込みを行う。<br/>3. 家庭学習…①プリントと板書を読み直し、教科書・地図帳で学習した範囲を確認する。②わからない所、納得できない所があれば、積極的に質問しにくる。<br/>4. 注意点…地理は内容が多いため、全範囲の学習は高3までかかります。高2から学習を着実に積み重ねることが重要です。<br/>『地図帳はぜったいに授業に持ってくること!』地形や気候の分布を何度も目にしなければ地理の学習が定着しません!</p> |

|           | 1学期始め～1学期中間   | 1学期中間～1学期期末   | 2学期始め～2学期中間   | 2学期中間～2学期期末   | 3学期始め～3学期期末   |
|-----------|---|---|---|---|---|
| 1年間の授業の進度 | 地図や地理情報システムでとらえる現代世界<br>「地図や地理情報システム」<br>人々の生活文化と多様な地理的環境<br>「小地形と人々の暮らし」 | 人々の生活文化と多様な地理的環境<br>「各気候区分と人々の暮らし」<br>自然環境と防災<br>「日本の地形と気候」 | 自然環境と防災<br>「日本の自然環境と災害」<br>さまざまな地球的課題と国際協力<br>「地球環境問題」<br>「食糧問題」<br>人々の生活文化と多様な地理的環境<br>「生活文化と産業」 | さまざまな地球的課題と国際協力<br>「資源エネルギー問題」<br>「人口問題」<br>「居住・都市問題」<br>資料から読み取る現代世界<br>「交通」「情報」「移動」「貿易」 | 人々の生活文化と多様な地理的環境<br>「生活文化の多様性と国際理解」<br>さまざまな地球的課題と国際協力<br>「民族問題」<br>「持続可能な社会の実現を目指して」<br>生活圏の調査と地域の展望 |

| 観点別評価             | 評価の観点   | 評価の方法   |
|-------------------|---|---|
| 知識技能              | 地理に関わるさまざまな事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解している。<br>地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べてまとめる技能を身につけている。                            | 定期考査<br>小テスト  |
| 思考力<br>判断力<br>表現力 | 地理に関わるさまざまな事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりすることができる。また、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。 | 定期考査<br>レポートやワークシートなどの提出物<br>グループワークや個人ワークへの取り組み状況やその内容<br>その他      |
| 主体的に学習に取り組む態度     | 現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。<br>地理に関わるさまざまな事象について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。                      | ノートなどの提出物<br>レポートやワークシートへの取り組み状況やその内容<br>グループワークや個人ワークへの取り組み状況やその内容 |

| 学年   | 教科   | 科目   | コース                | 単位数 | 使用教科書・副教材   |
|------|------|------|--------------------|-----|---|
| 高校2年 | 地理歴史 | 地理総合 | I類<br>(文系)<br>(理系) | 2   | 『地理総合』（東京書籍）<br>新詳高等地図(帝国書院)<br>新詳地理資料COMPLETE 2024（帝国書院） |

| 教科・科目の概要と目標  | 学習方法と流れ   |
|--|---|
| <p>地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けます。地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養います。地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするこの大切さについての自覚などを深めます。</p> | <p>1. 予習…範囲の教科書を熟読する。<br/>2. 授業中の取り組み…①板書をノートに書き写す。 ②教師の説明をノートに書き記しておく。③プリントは授業に沿って適宜書き込みを行う。<br/>3. 家庭学習…①プリントと板書を読み直し、教科書・地図帳で学習した範囲を確認する。②わからない所、納得できない所があれば、積極的に質問しにくること。<br/>4. 注意点…地理は内容が多いため、全範囲の学習は高3までかかります。高2から学習を着実に積み重ねることが重要です。<br/>『地図帳はぜったいに授業に持ってくること！』地形や気候の分布を何度も目にしなければ地理の学習が定着しません！</p> |

|                  | I学期始め～I学期中間   | I学期中間～I学期期末   | 2学期始め～2学期中間   | 2学期中間～2学期期末   | 3学期始め～3学期期末   |
|------------------|---|---|---|---|---|
| <b>1年間の授業の進度</b> | 地図や地理情報システムでとらえる現代世界<br>「地図や地理情報システム」<br>人々の生活文化と多様な地理的環境<br>「小地形と人々の暮らし」 | 人々の生活文化と多様な地理的環境<br>「各気候区分と人々の暮らし」<br>自然環境と防災<br>「日本の地形と気候」 | 自然環境と防災<br>「日本の自然環境と災害」<br>さまざまな地球的課題と国際協力<br>「地球環境問題」<br>「食糧問題」<br>人々の生活文化と多様な地理的環境<br>「生活文化と産業」 | さまざまな地球的課題と国際協力<br>「資源エネルギー問題」<br>「人口問題」<br>「居住・都市問題」<br>資料から読み取る現代世界<br>「交通」「情報」「移動」「貿易」 | 人々の生活文化と多様な地理的環境<br>「生活文化の多様性と国際理解」<br>さまざまな地球的課題と国際協力<br>「民族問題」<br>「持続可能な社会の実現を目指して」<br>生活圏の調査と地域の展望 |

| 観点別評価                | 評価の観点   | 評価の方法   |
|----------------------|---|---|
| <b>知識技能</b>          | 地理に関わるさまざまな事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解している。<br>地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べてまとめる技能を身につけている。                            | 定期考査<br>小テスト  |
| <b>思考力判断力表現力</b>     | 地理に関わるさまざまな事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりすることができる。また、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。 | 定期考査<br>レポートやワークシートなどの提出物<br>グループワークや個人ワークへの取り組み状況やその内容<br>その他      |
| <b>主体的に学習に取り組む態度</b> | 現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。<br>地理に関わるさまざまな事象について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。                      | ノートなどの提出物<br>レポートやワークシートへの取り組み状況やその内容<br>グループワークや個人ワークへの取り組み状況やその内容 |

| 学年   | 教科   | 科目   | コース                | 単位数 | 使用教科書・副教材   |
|------|------|------|--------------------|-----|---|
| 高校2年 | 地理歴史 | 地理総合 | Ⅱ類<br>(文系)<br>(理系) | 2   | 『地理総合』（東京書籍）<br>新詳高等地図(帝国書院)<br>新詳地理資料COMPLETE 2024（帝国書院） |

| 教科・科目の概要と目標  | 学習方法と流れ   |
|--|---|
| <p>地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けます。地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養います。地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするこの大切さについての自覚などを深めます。</p> | <p>1. 予習…範囲の教科書を熟読する。<br/>2. 授業中の取り組み…①板書をノートに書き写す。 ②教師の説明をノートに書き記しておく。③プリントは授業に沿って適宜書き込みを行う。<br/>3. 家庭学習…①プリントと板書を読み直し、教科書・地図帳で学習した範囲を確認する。②わからない所、納得できない所があれば、積極的に質問しにくること。<br/>4. 注意点…地理は内容が多いため、全範囲の学習は高3までかかります。高2から学習を着実に積み重ねることが重要です。<br/>『地図帳はぜったいに授業に持ってくること！』地形や気候の分布を何度も目にしなければ地理の学習が定着しません！</p> |

|           | 1学期始め～1学期中間   | 1学期中間～1学期期末   | 2学期始め～2学期中間   | 2学期中間～2学期期末   | 3学期始め～3学期期末   |
|-----------|---|---|---|---|---|
| 1年間の授業の進度 | 地図や地理情報システムでとらえる現代世界<br>「地図や地理情報システム」<br>人々の生活文化と多様な地理的環境<br>「小地形と人々の暮らし」 | 人々の生活文化と多様な地理的環境<br>「各気候区分と人々の暮らし」<br>自然環境と防災<br>「日本の地形と気候」 | 自然環境と防災<br>「日本の自然環境と災害」<br>さまざまな地球的課題と国際協力<br>「地球環境問題」<br>「食糧問題」<br>人々の生活文化と多様な地理的環境<br>「生活文化と産業」 | さまざまな地球的課題と国際協力<br>「資源エネルギー問題」<br>「人口問題」<br>「居住・都市問題」<br>資料から読み取る現代世界<br>「交通」「情報」「移動」「貿易」 | 人々の生活文化と多様な地理的環境<br>「生活文化の多様性と国際理解」<br>さまざまな地球的課題と国際協力<br>「民族問題」<br>「持続可能な社会の実現を目指して」<br>生活圏の調査と地域の展望 |

| 観点別評価             | 評価の観点   | 評価の方法   |
|-------------------|---|---|
| 知識技能              | 地理に関わるさまざまな事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解している。<br>地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べてまとめる技能を身につけている。                            | 定期考査<br>小テスト  |
| 思考力<br>判断力<br>表現力 | 地理に関わるさまざまな事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりすることができる。また、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。 | 定期考査<br>レポートやワークシートなどの提出物<br>グループワークや個人ワークへの取り組み状況やその内容<br>その他      |
| 主体的に学習に取り組む態度     | 現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。<br>地理に関わるさまざまな事象について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。                      | ノートなどの提出物<br>レポートやワークシートへの取り組み状況やその内容<br>グループワークや個人ワークへの取り組み状況やその内容 |

| 学年   | 教科   | 科目    | コース         | 単位数 | 使用教科書・副教材                               |
|------|------|-------|-------------|-----|---|
| 高校2年 | 地理歴史 | 世界史探究 | S特選<br>(文系) | 5   | 教科書：詳説世界史<br>副教材：世界史探究マスター問題集<br>タペストリー |

教科・科目の概要と目標

学習方法と流れ

概要：現代の社会の基本的な構造がどのような歴史的な変化の中で形成されてきたのか、またそれがどのような現代的な諸課題と関わっているのか、課題意識を持って考察する。

目標：(1)近現代の歴史に関わる諸事情について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。

(2)近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

(3)近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。

予習：教科書の精読

授業：①【小テスト】予習内容から出題する。  
②【目標の提示】各項目ごとに理解すべき目標を提示する。  
③【講義】各項目ごとに目標を意識しながら授業を受ける。板書のみならず丁寧にメモをとり、理解の深化に努める。  
④【問い】本時の授業内容の習得度をはかる問いを定期的に行う。

復習：①【日常学習】授業内容の簡単な復習  
②【問題集】授業進度、提出期限に合わせて各自で学習を進める。

|           | 1学期始め～1学期中間                              | 1学期中間～1学期期末  | 2学期始め～2学期中間                                 | 2学期中間～2学期期末   | 3学期始め～3学期期末                                |
|-----------|--|--|---|---|--|
| 1年間の授業の進度 | 第1章 文明の成立と古代文明の特質<br>第4章 西アジアと地中海周辺の国家形成 | 第2章 中央ユーラシアと東アジア世界の展開<br>第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開<br>(夏期登校講座：第5、6章 イスラム教の成立と伝播) | 第5、7章 ヨーロッパ世界の形成と展開<br>第8章 東アジア世界の展開とモンゴル帝国 | 第9章 大交易・大交流の時代<br>第10章 アジアの諸帝国の繁栄<br>第11章 近世ヨーロッパ世界の動向①<br>(冬季登校講座：第11章②) | 第12章 産業革命と環太平洋革命<br>第13章 イギリスの優位と欧米国民国家の形成 |

| 観点別評価             | 評価の観点   | 評価の方法  |
|-------------------|---|--|
| 知識技能              | ①授業を通し、現代世界の地域的特色の背景としての歴史の展開を理解することができる。<br>②自主的な復習や小テストを通して、知識を習得・定着できる。  | 定期考査<br>小テスト                                   |
| 思考力<br>判断力<br>表現力 | ①歴史的事象の意味や意義、特色、事象相互の関連を多面的多角的に考察することができる。<br>②自分の考察や構想を論理的・効果的に説明・論述し、他者の主張を踏まえたり取り入れたりしながら議論することができる。<br>③調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる。 | 定期考査<br>問い(論述)<br>その他                          |
| 主体的に学習に取り組む態度     | ①歴史的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けている。   | グループワーク<br>授業の取り組みに対するルーブリック評価<br>問いの内容<br>その他 |

| 学年   | 教科   | 科目    | コース               | 単位数 | 使用教科書・副教材  |
|------|------|-------|-------------------|-----|--|
| 高校2年 | 地理歴史 | 世界史探究 | I類(文系)<br>II類(文系) | 5   | 教科書：詳説世界史<br>副教材：世界史探求マスター問題集<br>+詳説世界史改訂版スタンダードテスト+タペストリー |

| 教科・科目の概要と目標   | 学習方法と流れ  |
|---|--|
| <p>概要：現代の社会の基本的な構造がどのような歴史的な変化の中で形成されてきたのか、またそれがどのような現代的な諸課題と関わっているのか、課題意識を持って考察する。</p> <p>目標：(1)近現代の歴史に関わる諸事情について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。</p> <p>(2)近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>(3)近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。</p> | <p>予習：教科書の精読</p> <p>授業：①【小テスト】前回の授業内容から出題する。</p> <p>②【目標の提示】各項目ごとに理解すべき目標を提示する。</p> <p>③【講義】各項目ごとに目標を意識しながら授業を受ける。板書のみならず丁寧にメモをとり、理解の深化に努める。</p> <p>④【小テスト】本時の授業内容の習得度をはかり、復習の指針にする。</p> <p>⑤【目標の達成】授業の冒頭にテーマとして提示された間に回答する。</p> <p>復習：①【日常学習】授業内容の簡単な復習</p> <p>②【問題集】授業進度、提出期限に合わせて各自で学習を進める。</p> |

|           | I学期始め～I学期中間                              | I学期中間～I学期期末  | 2学期始め～2学期中間                                 | 2学期中間～2学期期末   | 3学期始め～3学期期末                                |
|-----------|--|--|---|---|--|
| 1年間の授業の進度 | 第1章 文明の成立と古代文明の特質<br>第4章 西アジアと地中海周辺の国家形成 | 第2章 中央ユーラシアと東アジア世界の展開<br>第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開<br>(夏期登校講座：第5、6章 イスラム教の成立と伝播) | 第5、7章 ヨーロッパ世界の形成と展開<br>第8章 東アジア世界の展開とモンゴル帝国 | 第9章 大交易・大交流の時代<br>第10章 アジアの諸帝国の繁栄<br>第11章 近世ヨーロッパ世界の動向①<br>(冬季登校講座：第11章②) | 第12章 産業革命と環太平洋革命<br>第13章 イギリスの優位と欧米国民国家の形成 |

| 観点別評価             | 評価の観点  | 評価の方法   |
|-------------------|--|---|
| 知識技能              | ①授業を通し、現代世界の地域的特色の背景としての歴史の展開を理解することができる。<br>②自主的な復習や小テストを通して、知識を習得・定着できる。   | 定期考査<br>中テスト                                      |
| 思考力<br>判断力<br>表現力 | ①歴史的な事象の意味や意義、特色、事象相互の関連を多面的多角的に考察することができる。<br>②自分の考察や構想を論理的・効果的に説明・論述し、他者の主張を踏まえたり取り入れたりしながら議論することができる。<br>③調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる。 | 定期考査<br>授業達成度評価(論述)<br>その他                        |
| 主体的に学習に取り組む態度     | ①歴史的な事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けている。   | グループワーク<br>授業の取り組みに対するルーブリック評価<br>提出物、中テスト<br>その他 |

| 学年   | 教科   | 科目    | コース         | 単位数 | 使用教科書・副教材  |
|------|------|-------|-------------|-----|--|
| 高校2年 | 地理歴史 | 日本史探究 | S特選<br>(文系) | 5   | 【教科書】<br>山川出版『詳説日本史(日探705)』<br>【副教材】<br>山川出版『詳説日本史図録 第10版(日探705準拠)』<br>Z会出版『実力をつける日本史100題 [改訂第3版]』 |

| 教科・科目の概要と目標  | 学習方法と流れ   |
|--|---|
| <p>【教科の概要】必履修科目である「歴史総合」の学習によって身に付けた資質・能力を基に、我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを考察し、よりよい社会の実現を視野に、歴史的経緯を踏まえて、現代の日本の課題を探究する科目である。</p> <p>【目標】(1)我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。(2)我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。(3)我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p> | <p>【予習】<br/>①教科書の通読 ②授業動画の視聴 ③授業冊子へのメモ</p> <p>【授業】<br/>①予習確認テスト：授業動画の視聴を確認するテスト<br/>②授業ポイントの整理<br/>③論点の要約：『日本史の論点』による要約（論述問題の練習）<br/>④演習問題・論述問題<br/>⑤単元ごとの小テスト：復習テスト</p> <p>【復習】<br/>①定期考査・模試に向けた復習</p> |

|           | 1学期始め～1学期中間  | 1学期中間～1学期期末                         | 2学期始め～2学期中間                 | 2学期中間～2学期期末               | 3学期始め～3学期期末                    |
|-----------|--|-------------------------------------|-----------------------------|---------------------------|--------------------------------|
| 1年間の授業の進度 | A-1 日本文化のあけぼの<br>A-2 古墳とヤマト政権<br>A-3 律令国家の形成（飛鳥時代） | A-3 律令国家の形成（奈良・平安時代）<br>A-4 貴族政治の展開 | B-5 院政と武士の躍進<br>B-6 武家政権の成立 | B-7 武家社会の成長<br>C-8 近世の幕開け | C-9 幕藩体制の成立と展開<br>C-10 幕藩体制の動揺 |

| 観点別評価             | 評価の観点   | 評価の方法                                       |
|-------------------|---|---|
| 知識技能              | ①授業動画を視聴し、予習確認テストにおいて習得した知識を発揮できる。<br>②授業における取り組みの成果を、復習テストや定期考査で発揮できる。   | 定期考査<br>予習確認テスト<br>復習テスト                    |
| 思考力<br>判断力<br>表現力 | ①歴史的事象の意味や意義、特色、事象相互の関連を多面的多角的に考察することができる。<br>②自分の考察や構想を論理的・効果的に説明・論述し、他者の主張を踏まえたり取り入れたりしながら議論することができる。<br>③調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる。 | 定期考査<br>論点要約・論述演習<br>その他アクティブラーニング式授業への取り組み |
| 主体的に学習に取り組む態度     | ①授業内での取り組みに対して、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を身につけている。<br>②課題解決に向けた主体的な姿勢だけでなく、他者との積極的な協働学習に対し意欲的に取り組み、協調的な関係を築くことができる。                         | グループワーク<br>授業におけるルーブリック評価<br>定期考査ごとの振り返り    |

| 学年   | 教科   | 科目    | コース               | 単位数 | 使用教科書・副教材  |
|------|------|-------|-------------------|-----|--|
| 高校2年 | 地理歴史 | 日本史探究 | I類(文系)<br>II類(文系) | 5   | 【教科書】山川出版『詳説日本史(日探705)』<br>【副教材】<br>山川出版『詳説日本史図録 第10版(日探705準拠)』<br>Z会出版『実力をつける日本史100題 [改訂第3版]』(I類)<br>山川出版『日本史探究 詳説日本史スタンダードテスト(日探705準拠)』(II類) |

教科・科目の概要と目標

学習方法と流れ

【教科の概要】必履修科目である「歴史総合」の学習によって身に付けた資質・能力を基に、我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを考察し、よりよい社会の実現を視野に、歴史的経緯を踏まえて、現代の日本の課題を探究する科目である。

【目標】(1)我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。(2)我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。(3)我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

【予習】  
①教科書の通読 ②授業動画の視聴 ③授業冊子へのメモ

【授業】  
①予習確認テスト：授業動画の視聴を確認するテスト  
②授業ポイントの整理  
③論点の要約：『日本史の論点』による要約(論述問題の練習)  
④演習問題・論述問題  
⑤単元ごとの小テスト：復習テスト

【復習】  
①定期考査・模試に向けた復習

|           | I学期始め～I学期中間  | I学期中間～I学期期末                         | 2学期始め～2学期中間                 | 2学期中間～2学期期末               | 3学期始め～3学期期末                    |
|-----------|--|-------------------------------------|-----------------------------|---------------------------|--------------------------------|
| I年間の授業の進度 | A-1 日本文化のあけぼの<br>A-2 古墳とヤマト政権<br>A-3 律令国家の形成(飛鳥時代) | A-3 律令国家の形成(奈良・平安時代)<br>A-4 貴族政治の展開 | B-5 院政と武士の躍進<br>B-6 武家政権の成立 | B-7 武家社会の成長<br>C-8 近世の幕開け | C-9 幕藩体制の成立と展開<br>C-10 幕藩体制の動揺 |

| 観点別評価             | 評価の観点   | 評価の方法                                       |
|-------------------|---|---|
| 知識技能              | ①授業動画を視聴し、予習確認テストにおいて習得した知識を発揮できる。<br>②授業における取り組みの成果を、復習テストや定期考査で発揮できる。   | 定期考査<br>予習確認テスト<br>復習テスト                    |
| 思考力<br>判断力<br>表現力 | ①歴史的事象の意味や意義、特色、事象相互の関連を多面的多角的に考察することができる。<br>②自分の考察や構想を論理的・効果的に説明・論述し、他者の主張を踏まえたり取り入れたりしながら議論することができる。<br>③調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる。 | 定期考査<br>論点要約・論述演習<br>その他アクティブラーニング式授業への取り組み |
| 主体的に学習に取り組む態度     | ①授業内での取り組みに対して、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を身につけている。<br>②課題解決に向けた主体的な姿勢だけでなく、他者との積極的な協働学習に対し意欲的に取り組み、協調的な関係を築くことができる。                         | グループワーク<br>授業におけるルーブリック評価<br>定期考査ごとの振り返り    |

| 学年   | 教科 | 科目  | コース                         | 単位数 | 使用教科書・副教材                                  |
|------|----|-----|-----------------------------|-----|--|
| 高校2年 | 数学 | 数学Ⅱ | S特選(文系)<br>Ⅰ類(文系)<br>Ⅱ類(文系) | 3   | 数学Ⅱ, 数学B(数研出版)<br>サクシード数学Ⅱ+B<br>チャート(青)Ⅱ+B |

| 教科・科目の概要と目標   | 学習方法と流れ   |
|---|---|
| <p>数学Ⅱ「三角関数」「微分法と積分法」、数学B「確率分布と統計的な推測」を学習する。講習では数学ⅠA・ⅡBの演習を行うことで、総合力を養う。</p> <p>① 加法定理など三角関数の基本的性質を理解し、倍角の公式など新たな性質を導く。<br/>② 導関数や定積分などの意味を理解し、微分と積分の関係に注目してグラフや面積について考察する。<br/>③ 指数法則の拡張、対数の意味と基本的性質を理解し、相互に関連付け、日常や社会の事象の問題解決に活用する。</p> | <p>授業用のノートと、家庭学習(問題集)ノートの2種類を用意する。考査や模試の解き直しも家庭学習ノートにやる。</p> <p>① 「予習→授業→復習」の学習習慣を確立する(数学は特に復習を重視する)。<br/>② 1~2週に1回程度、復習確認テストを行う。テストは必ず解き直しを行う。<br/>③ 模試は終了後、必ず解き直しを行う。<br/>④ 家庭学習ノートには答えだけでなく、導き出す過程(途中式や文章)も書く。</p> |

|           | 1学期始め~1学期中間 | 1学期中間~1学期期末               | 2学期始め~2学期中間  | 2学期中間~2学期期末                    | 3学期始め~3学期期末    |
|-----------|-------------|---------------------------|--------------|--------------------------------|----------------|
| 1年間の授業の進度 | (数Ⅱ) 三角関数   | (数Ⅱ) 三角関数<br>(数Ⅱ) 微分法と積分法 | (数Ⅱ) 微分法と積分法 | (数Ⅱ) 微分法と積分法<br>(数Ⅱ) 指数関数と対数関数 | (数Ⅱ) 指数関数と対数関数 |

| 観点別評価             | 評価の観点  | 評価の方法                                 |
|-------------------|--|---------------------------------------|
| 知識技能              | 「指数関数と対数関数」「三角関数」「微分法と積分法」における基本的な概念、原理や法則、用語や記号などを理解し、基礎的な知識を身に付けている。                                   | ・定期考査(計算など基本問題)<br>・復習確認テスト(計算など基本問題) |
| 思考力<br>判断力<br>表現力 | 「指数関数と対数関数」の相互関係による日常の事象「三角関数」における合成などさまざまな性質の証明、「微分法と積分法」におけるグラフや面積についての考察など、計算だけでなく結論を導き出す過程を正確に表現できる。 | ・定期考査(記述など応用問題)<br>・復習確認テスト(記述など応用問題) |
| 主体的に学習に取り組む態度     | 授業の復習を必ず行い、課題・考査・模試の解き直しを綿密に行うだけでなく、身に付けた数学的な見方や考え方を積極的かつ発展的に活用することができる。                                 | ・提出物など                                |

| 学年   | 教科 | 科目  | コース                         | 単位数 | 使用教科書・副教材   |
|------|----|-----|-----------------------------|-----|---|
| 高校2年 | 数学 | 数学Ⅱ | S特選（理系）<br>Ⅰ類（理系）<br>Ⅱ類（理系） | 5   | 数学Ⅱ，数学Ⅲ（数研出版）<br>サクシード数学Ⅱ+B，Ⅲ+C<br>チャート(青)Ⅱ+B，Ⅲ+C |

| 教科・科目の概要と目標  | 学習方法と流れ   |
|--|---|
| <p>数学Ⅱ「三角関数」「指数関数と対数関数」「微分法と積分法」，数学Ⅲ「極限」「微分法」「微分法の応用」を学習する。講習では数学ⅠA・ⅡB・Ⅲの演習を行うことで，総合力を養う。</p> <p>① 加法定理など三角関数の基本的性質を理解し，倍角の公式など新たな性質を導く。<br/>② 導関数や定積分などの意味を理解し，微分と積分の関係に注目してグラフや面積について考察する。<br/>③ 極限の考え方を通じて微分の理解を深め，増減やグラフの凹凸などからさまざまな事象を数学的に考察する。</p> | <p>授業用のノートと，家庭学習（問題集）ノートの2種類を用意する。考査や模試の解き直しも家庭学習ノートにやる。</p> <p>① 「予習→授業→復習」の学習習慣を確立する（数学は特に復習を重視する）。<br/>② 1～2週に1回程度，復習確認テストを行う。テストは必ず解き直しを行う。<br/>③ 模試は終了後，必ず解き直しを行う。<br/>④ 家庭学習ノートには答えだけでなく，導き出す過程（途中式や文章）も書く。</p> |

|           | 1学期始め～1学期中間                 | 1学期中間～1学期期末                    | 2学期始め～2学期中間             | 2学期中間～2学期期末         | 3学期始め～3学期期末                         |
|-----------|-----------------------------|--------------------------------|-------------------------|---------------------|-------------------------------------|
| 1年間の授業の進度 | (数Ⅱ) 三角関数<br>(数Ⅱ) 指数関数と対数関数 | (数Ⅱ) 指数関数と対数関数<br>(数Ⅱ) 微分法と積分法 | (数Ⅱ) 微分法と積分法<br>(数Ⅲ) 極限 | (数Ⅲ) 極限<br>(数Ⅲ) 微分法 | (数Ⅲ) 微分法<br>(数Ⅲ) 微分法の応用<br>(数Ⅲ) 積分法 |

| 観点別評価             | 評価の観点  | 評価の方法                                 |
|-------------------|--|---------------------------------------|
| 知識技能              | 数学Ⅱ「三角関数」「指数関数と対数関数」「微分法と積分法」，数学Ⅲ「極限」「微分法」「微分法の応用」における基本的な概念，原理や法則，用語や記号などを理解し，基礎的な知識を身に付けている。                               | ・定期考査（計算など基本問題）<br>・復習確認テスト（計算など基本問題） |
| 思考力<br>判断力<br>表現力 | 「三角関数」「指数関数と対数関数」におけるさまざまな性質の証明と活用，「微分法と積分法」におけるグラフや面積についての考察，「極限」「微分法の応用」を用いた事象やその関係についての問題の解決など，計算だけでなく結論を導き出す過程を正確に表現できる。 | ・定期考査（記述など応用問題）<br>・復習確認テスト（記述など応用問題） |
| 主体的に学習に取り組む態度     | 授業の復習を必ず行い，課題・考査・模試の解き直しを綿密に行うだけでなく，身に付けた数学的な見方や考え方を積極的かつ発展的に活用することができる。   | ・提出物など                                |

| 学年   | 教科 | 科目  | コース                          | 単位数 | 使用教科書・副教材  |
|------|----|-----|------------------------------|-----|--|
| 高校2年 | 数学 | 数学B | S特選(文系)<br>I類(文系)<br>II類(文系) | 2   | 数学II, 数学B, 数学C(数研出版)<br>サクシード数学II+B, 数学C<br>チャート(青)II+B, 数学C |

教科・科目の概要と目標

学習方法と流れ

|  |   |
|--|---|
| <p>数学II「指数関数と対数関数」数学C「平面上のベクトル」「空間のベクトル」を学習する。講習では数学IA・IIB・Cの演習を行うことで、総合力を養う。</p> <p>① ベクトルや内積などの基本的性質を理解し、平面図形や空間図形の性質を見出し、多面的に考察する。<br/>② 確率変数と確率分布について理解し、正規分布を用いた区間推定や仮説検定の方法を身に付ける。</p> | <p>授業用のノートと、家庭学習(問題集)ノートの2種類を用意する。考査や模試の解き直しも家庭学習ノートにやる。</p> <p>① 「予習→授業→復習」の学習習慣を確立する(数学は特に復習を重視する)。<br/>② 1~2週に1回程度、復習確認テストを行う。テストは必ず解き直しを行う。<br/>③ 模試は終了後、必ず解き直しを行う。<br/>④ 家庭学習ノートには答えだけでなく、導き出す過程(途中式や文章)も書く。</p> |
|--|---|

|           | 1学期始め~1学期中間   | 1学期中間~1学期期末   | 2学期始め~2学期中間                 | 2学期中間~2学期期末 | 3学期始め~3学期期末 |
|-----------|---------------|---------------|-----------------------------|-------------|-------------|
| 1年間の授業の進度 | (数C) 平面上のベクトル | (数C) 平面上のベクトル | (数C) 空間のベクトル<br>(数B) 統計的な推測 | (数B) 統計的な推測 | (数B) 統計的な推測 |

| 観点別評価             | 評価の観点   | 評価の方法                                 |
|-------------------|---|---------------------------------------|
| 知識技能              | 「指数関数と対数関数」「平面上のベクトル」「空間のベクトル」「確率分布と統計的な推測」における基本的な概念、原理や法則、用語や記号などを理解し、基礎的な知識を身に付けている。 | ・定期考査(計算など基本問題)<br>・復習確認テスト(計算など基本問題) |
| 思考力<br>判断力<br>表現力 | 「確率分布と統計的な推測」における区間推定や仮説検定、「ベクトル」による平面図形や空間図形における多面的な考察など、計算だけでなく結論を導き出す過程を正確に表現できる。    | ・定期考査(記述など応用問題)<br>・復習確認テスト(記述など応用問題) |
| 主体的に学習に取り組む態度     | 授業の復習を必ず行い、課題・考査・模試の解き直しを綿密に行うだけでなく、身に付けた数学的な見方や考え方を積極的かつ発展的に活用することができる。                | ・提出物など                                |

| 学年   | 教科 | 科目  | コース                          | 単位数 | 使用教科書・副教材  |
|------|----|-----|------------------------------|-----|--|
| 高校2年 | 数学 | 数学B | S特選(理系)<br>I類(理系)<br>II類(理系) | 3   | 数学B, 数学C(数研出版)<br>サクシード数学II+B, III+C<br>チャート(青)II+B, III+C |

| 教科・科目の概要と目標  | 学習方法と流れ   |
|--|---|
| <p>数学B「確率分布と統計的な推測」数学C「平面上のベクトル」「空間のベクトル」「式と曲線」を学習する。講習では数学IA・IIB・Cの演習を行うことで、総合力を養う。</p> <p>① ベクトルや内積などの基本的性質を理解し、平面図形や空間図形の性質を見出し、多面的に考察する。<br/>② 確率変数と確率分布について理解し、正規分布を用いた区間推定や仮説検定の方法を身に付ける。<br/>③ 放物線、楕円、双曲線を相互に関連付けてとらえ、考察する。</p> | <p>授業用のノートと、家庭学習(問題集)ノートの2種類を用意する。考査や模試の解き直しも家庭学習ノートにやる。</p> <p>① 「予習→授業→復習」の学習習慣を確立する(数学は特に復習を重視する)。<br/>② 1~2週に1回程度、復習確認テストを行う。テストは必ず解き直しを行う。<br/>③ 模試は終了後、必ず解き直しを行う。<br/>④ 家庭学習ノートには答えだけでなく、導き出す過程(途中式や文章)も書く。</p> |

|           | I学期始め~I学期中間   | I学期中間~I学期期末                   | 2学期始め~2学期中間 | 2学期中間~2学期期末                           | 3学期始め~3学期期末             |
|-----------|---------------|-------------------------------|-------------|---------------------------------------|-------------------------|
| I年間の授業の進度 | (数C) 平面上のベクトル | (数C) 平面上のベクトル<br>(数C) 空間のベクトル | (数B) 統計的な推測 | (数B) 統計的な推測<br>(数III) 関数<br>(数C) 式と曲線 | (数C) 式と曲線<br>(数C) 複素数平面 |

| 観点別評価             | 評価の観点   | 評価の方法                                 |
|-------------------|---|---------------------------------------|
| 知識技能              | 「平面上のベクトル」「空間のベクトル」「確率分布と統計的な推測」「式と曲線」「複素数平面」における基本的な概念、原理や法則、用語や記号などを理解し、基礎的な知識を身に付けている。 | ・定期考査(計算など基本問題)<br>・復習確認テスト(計算など基本問題) |
| 思考力<br>判断力<br>表現力 | 「ベクトル」による平面図形や空間図形における多面的な考察、「確率分布と統計的な推測」における区間推定や仮説検定など、計算だけでなく結論を導き出す過程を正確に表現できる。      | ・定期考査(記述など応用問題)<br>・復習確認テスト(記述など応用問題) |
| 主体的に学習に取り組む態度     | 授業の復習を必ず行い、課題・考査・模試の解き直しを綿密に行うだけでなく、身に付けた数学的な見方や考え方を積極的かつ発展的に活用することができる。                  | ・提出物など                                |

| 学年   | 教科 | 科目 | コース                          | 単位数 | 使用教科書・副教材                 |
|------|----|----|------------------------------|-----|---------------------------|
| 高校2年 | 理科 | 物理 | S特選(理系)<br>I類(理系)<br>II類(理系) | 3   | 物理(実教出版)<br>セミナー物理(第一学習社) |

| 教科・科目の概要と目標  | 学習方法と流れ   |
|--|---|
| <p>【概要】物理学は自然現象をよく観察して、さまざまな現象に存在する法則性を発見することから始まります。そのような法則は、自然がどのように成り立っていることによるのかを研究して、最終的には自然の本質にせまろうとする学問です。また、さまざまな自然現象に共通する原理や法則を発見するために、実験を通して、その測定データを分析することにより、原理や法則を見出していきます。</p> <p>物理では、物理基礎を踏まえたうえで、力学から始まり、物理学の自然理解の方法を学びつつ、熱、波動、電気、原子について学びます。</p> <p>【目標】大学入試共通テスト、大学入試問題に対応できる力を身につける。</p> | <p>1. 基礎的な内容を理解する上で演習を多く取り入れ、知識の定着をはかります。また、単元によっては、実験なども取り入れ、科学的な理解を深めていきます。</p> <p>2. 講義を中心に学習を進めていき、自然現象の法則性、さらには、自然の実態を理解していきます。さらに、練習問題、入試問題を解くことでその理解の定着をはかります。</p> |

|           | I学期始め～I学期中間   | I学期中間～I学期期末  | 2学期始め～2学期中間   | 2学期中間～2学期期末   | 3学期始め～3学期期末  |
|-----------|---|--|---|---|--|
| 1年間の授業の進度 | 第1章 平面内の運動<br>1. 平面運動の速度・加速度<br>2. 落体の運動<br>第2章 剛体<br>1. 剛体にはたらく力のつり合い<br>2. 剛体にはたらく力の合力と重心 | 第3章 運動量の保存<br>1. 運動量と力積<br>2. 運動量保存則<br>3. 反発係数<br>第4章 円運動と万有引力<br>1. 等速円運動 2. 慣性力<br>3. 単振動 4. 万有引力 | 第2編 熱と気体<br>第1章 気体とエネルギーと状態変化<br>1. 気体の法則<br>2. 気体の分子運動<br>3. 気体の状態変化 | 第3編 波<br>第1章 波の伝わり方<br>1. 正弦波<br>2. 波の伝わり方<br>第2章 音の伝わり方<br>1. 音の伝わり方<br>2. ドップラー効果 | 第3章 光<br>1. 光の性質 2. レンズ<br>3. 光の干渉と回折<br>⇒余裕があれば『基礎の電気』<br>第4編 電気と磁気<br>第1章 電場の進めるところまで。 |

| 観点別評価         | 評価の観点  | 評価の方法  |
|---------------|--|--|
| 知識技能          | 観察、実験や課題研究などを通して物理的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身に付けていること。               | ◇定期考査の素点の一部<br>◇小テスト・確認テストの点数<br>◇実験・観察後の提出課題の評価 |
| 思考力判断力表現力     | 物理的な事物・現象の中に問題を見出し、観察実験などを行うとともに、事象を実証的論理的に考えたり、分析的統一的に考察したりして、事実に基づいて判断できること。 | ◇定期考査の素点の一部<br>◇小テスト・確認テストの点数<br>◇実験・観察後の提出課題の評価 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 物理的な事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身につけていること。                          | ◇小テスト・確認テストの点数<br>◇実験・観察後の提出課題の評価                |

| 学年   | 教科 | 科目   | コース                          | 単位数 | 使用教科書・副教材                                |
|------|----|------|------------------------------|-----|--|
| 高校2年 | 理科 | 化学基礎 | S特選（理系）<br>I類（理系）<br>II類（理系） | 3   | 高等学校 化学基礎、化学（数研出版）<br>セミナー化学基礎+化学（第一学習社） |

| 教科・科目の概要と目標  | 学習方法と流れ  |
|--|--|
| <p>【概要】化学基礎および化学を系統的に学習していきます。化学は、物質を①構造②性質③反応性の3観点から理解することで、自然界の原理・法則を見出す学問です。それは、地球環境保護と現代社会発展への貢献につながります。理系選択者としての将来を見据えながら、学習をすすめていきましょう。</p> <p>【目標】</p> <p>①実験や観察を通して、科学に関する知識や理解を深め、科学的な思考や理解力を養う。</p> <p>②将来の生活場面において、化学的な知識や理論が活用できるようにする。</p> <p>③大学入学共通テストや大学入学試験に耐えうる学力を定着させる。</p> | <p>1) 基礎的な内容から発展的なものまで、化学の持つ法則性、物質の持つ共通性・特殊性を学習します。</p> <p>問題演習・実験を通して単元内容を考察しながら、実験技能の向上を図ります。また、大学入試において題材にされやすい実験も取り入れ、科学的な理解を深めるだけでなく、将来の入試に対応できる力も養成します。</p> <p>2) 定期考査によって理解度を確認、さらなる定着を図ります。さらに、模試を活用して既習内容を継続的に振り返り、基礎学力を維持することで、より発展的な学習につなげます。</p> |

|           | 1学期始め～1学期中間   | 1学期中間～1学期期末  | 2学期始め～2学期中間   | 2学期中間～2学期期末   | 3学期始め～3学期期末   |
|-----------|---|--|---|---|---|
| 1年間の授業の進度 | <p>【化学基礎】 総復習</p> <p>&lt;第1編 物質の状態&gt;</p> <p>第1章 粒子の結合と結晶の構造</p> <p>第2章 物質の三態と状態変化</p> | <p>&lt;第1編 物質の状態&gt;</p> <p>第3章 気体</p> <p>第4章 溶液</p> | <p>&lt;第2編 物質の変化&gt;</p> <p>第1章 化学変化とエネルギー</p> <p>第2章 電池と電気分解</p> | <p>&lt;第2編 物質の変化&gt;</p> <p>第3章 化学反応の速さとしくみ</p> <p>第4章 化学平衡</p> | <p>&lt;第3編 無機化学&gt;</p> <p>第1章 非金属元素</p> <p>第2章 金属元素（I）</p> <p>第3章 金属元素（II）</p> |

| 観点別評価         | 評価の観点   | 評価の方法  |
|---------------|---|--|
| 知識技能          | 観察、実験などを通して化学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けているかどうか。  | ◇定期考査の素点の一部<br>◇小テスト・確認テストの点数<br>◇実験・観察後の提出課題の評価 |
| 思考力判断力表現力     | 化学的な事物・現象の中に問題を見だし、観察、実験などを行うとともに、事象を実証的、論理的に考えたり、分析的・総合的に考察したりして、問題を解決し、事実に基づいて科学的に判断することができるか。また、観察、実験の過程や結果及びそこから導き出した自らの考えを的確に表現することができるかどうか。 | ◇定期考査の素点の一部<br>◇小テスト・確認テストの点数<br>◇実験・観察後の提出課題の評価 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 化学的な事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。   | ◇小テスト・確認テストの点数<br>◇実験・観察後の提出課題の評価                |

| 学年   | 教科 | 科目 | コース                          | 単位数 | 使用教科書・副教材                            |
|------|----|----|------------------------------|-----|--------------------------------------|
| 高校2年 | 理科 | 生物 | S特選（理系）<br>I類（理系）<br>II類（理系） | 3   | 高等学校 生物（第一学習社）<br>生物図説・セミナー生物（第一学習社） |

| 教科・科目の概要と目標  | 学習方法と流れ  |
|--|--|
| <p>【概要】<br/>生物の体を構成する細胞やタンパク質、その他の生体物質の機能や構造を学び、それらの機能であるセントラルドグマの過程、そしてこれらが強調して働く発生や遺伝、さらにはよりマクロな視点として生態学や進化の歴史を学びます。</p> <p>【目標】<br/>2年生においては、ミクロな視点である生体物質、遺伝現象と発現、そして生物の発生について学びます。これらに対して包括的な知識体系を形成するとともに、大学入学共通テストを解答するに足る思考力を身につけることを目的とします。</p> | <p>① 基礎的な内容から発展的なものまで、科学の持つ法則性、物質の持つ共通性・特殊性を学習します。</p> <p>② 問題演習・実験を通して単元内容を考察しながら、実験技能の向上を図ります。また、大学入試において題材にされやすい実験も取り入れ、科学的な理解を深めるだけでなく、将来の入試に対応できる力も養成します。</p> <p>③ 学習内容、時期によっては、授業動画（オンデマンド教材）も活用します。</p> |

|           | 1学期始め～1学期中間   | 1学期中間～1学期期末        | 2学期始め～2学期中間  | 2学期中間～2学期期末                               | 3学期始め～3学期期末                       |
|-----------|---|--------------------|--|---|-----------------------------------|
| 1年間の授業の進度 | <細胞と分子><br>・生体物質と細胞<br>・細胞膜を介した物質の移動<br>・生命現象とタンパク質 | <代謝><br>・同化<br>・異化 | <遺伝情報の発現><br>・遺伝情報とその発現<br>・遺伝子の発現調節<br>・バイオテクノロジー | <生殖と発生><br>・有性生殖と無性生殖<br>・動物の発生<br>・植物の発生 | <生物の環境応答><br>・植物の環境応答<br>・動物の環境応答 |

| 観点別評価         | 評価の観点  | 評価の方法  |
|---------------|--|--|
| 知識技能          | ◇自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。<br>◇観察、実験の基本操作を習得するとともに、自然の事物・現象を科学的に探究する方法を身に付け、それらの過程や結果及びそこから導き出した自らの考えを的確に表現する。 | ◇定期考査の素点の一部<br>◇小テスト・確認テストの点数<br>◇実験・観察後の提出課題の評価 |
| 思考力判断力表現力     | ◇自然の事物・現象の中に問題を見だし、目的意識をもって観察、実験などを行うとともに、事象を実証、論理的に考えたり、分析的、総合的に考察したりして問題を解決する。   | ◇定期考査の素点の一部<br>◇小テスト・確認テストの点数<br>◇実験・観察後の提出課題の評価 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | ◇自然の事物・現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、事象を人間生活とのかかわりで見ようとする。   | ◇小テスト・確認テストの点数<br>◇実験・観察後の提出課題の評価                |

| 学年   | 教科 | 科目   | コース                          | 単位数 | 使用教科書・副教材   |
|------|----|------|------------------------------|-----|---|
| 高校2年 | 理科 | 地学基礎 | S特選(文系)<br>I類(文系)<br>II類(文系) | 2   | 地学基礎(第一学習社)<br>書き込みサブノート地学基礎改訂版(旺文社)<br>スクエア最新図説地学(第一学習社) |

| 教科・科目の概要と目標  | 学習方法と流れ  |
|--|--|
| <p><b>【概要】</b><br/>「地学基礎」は、中学校で学習した内容を基礎として、日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、観察、実験などを通して、地学的に探究する能力と態度を育てるとともに、地学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う科目です。</p> <p><b>【目標】</b><br/>① 地球や地球を取り巻く環境に関する基本的な概念や原理・法則を理解する。<br/>② 地球の自然環境と日常生活や社会とのかかわりを考えることができるようにする。</p> | <p>① 中学で学んだ知識を再確認します。<br/>その基本的知識をもとに地球上で起こる諸現象をより科学的にとらえ、より高度な知識を学びます。</p> <p>② 問題演習・観察を通して単元内容を考察しながら、観察等の技能の向上を図ります。</p> <p>③ 定期考査によって理解度を確認、さらなる定着を図ります。<br/>さらに、模試を活用して既習内容を継続的に振り返り、基礎学力を維持することで、より発展的な学習につなげます。</p> |

|           | I学期始め～I学期中間 | I学期中間～I学期期末 | 2学期始め～2学期中間         | 2学期中間～2学期期末      | 3学期始め～3学期期末 |
|-----------|-------------|-------------|---------------------|------------------|-------------|
| I年間の授業の進度 | ◆地球のすがた     | ◆地球の活動      | ◆地球と生物の変遷<br>◆地層と化石 | ◆大気と海洋<br>◆地球の環境 | ◆宇宙と地球      |

| 観点別評価             | 評価の観点   | 評価の方法   |
|-------------------|---|---|
| 知識技能              | 学習した基本的な概念や原理・方法が正しく理解できたか。                                       | 1、各学期の成績評価は、定期考査のうち、知識・技能を問う問題の点数を評価する。<br>2、学年末の成績評価は、各学期の評価をもとにする。<br>3、知識を問う小テストなどで評価することがある。    |
| 思考力<br>判断力<br>表現力 | 課題を遂行するにあたって、科学的・理論的に思考し、判断しているか。<br>推論、実験、検証の過程で科学的な考え方、方法を用いたか。 | 1、各学期の成績評価は、定期考査のうち、思考力・判断力・表現力を問う問題の点数を評価する。<br>2、学年末の成績評価は、各学期の評価をもとにする。<br>3、提出物の期限などで評価することがある。 |
| 主体的に学習に取り組む態度     | 自然現象に対して興味・関心を示しているか。<br>意欲的に課題を追及する態度を身につけているか。                  | 1、各学期の成績評価は、授業プリント・実験レポート・宿題などを評価する。<br>2、学年末の成績評価は、各学期の評価をもとにする。                                   |

| 学年   | 教科   | 科目 | コース | 単位数 | 使用教科書・副教材 |
|------|------|----|-----|-----|-----------|
| 高校2年 | 保健体育 | 体育 | 共通  | 2   |           |

| 教科・科目の概要と目標   | 学習方法と流れ   |
|---|---|
| 1. 運動技能・体力の向上、健康の増進、安全に対する知識・判断力を習得する。<br>2. 学校内はもちろん、学校以外の生活の場面でも、健康で明るい生活を送ることができるような身体作りをする。<br>3. 中学で修得した個人技能に加え、連携プレーなどで協力の精神を養う。また、スポーツ全般の基礎となる陸上競技を取り入れ、全身の持久力、瞬発力を高め筋力の増強に努める。<br>4. 体育祭を通し、集団の中で果たすべき責任を全うする能力を身に付ける。<br>5. 体育行事（主にTRF）を通して困難を前にたじろがない強い心を身に付ける。 | ・体育については、所定の場所（体育館・グラウンド・地下体育館）で実施する。<br>※各種事情により取り扱う運動領域を変更する場合あり。<br>・3学期から来年度の体育祭に向けての練習(集団行動・ダンス)を中心に行う |

|           | 1学期始め～1学期中間            | 1学期中間～1学期期末  | 2学期始め～2学期中間 | 2学期中間～2学期期末 | 3学期始め～3学期期末     |
|-----------|------------------------|--------------|-------------|-------------|-----------------|
| 1年間の授業の進度 | 体力テスト<br>集団行動<br>体育祭練習 | 体育祭練習<br>球技Ⅰ | 球技Ⅱ         | 球技Ⅱ         | ダンス、集団行動<br>持久走 |

| 観点別評価             | 評価の観点   | 評価の方法   |
|-------------------|---|---|
| 知識技能              | 社会の変化とスポーツ、運動技能の構造と運動の学び方、体ほぐしの意義と体力の高め方に関する基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。<br>自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して運動を行うとともに、運動の技能を高めている。また、自己の生活に応じて体力を高めるための運動の合理的な行い方を身に付けている。 | 各学期末に所定の場所（体育館・グラウンド・地下体育館）で行う実技テストで到達度を確認する他、授業への取り組み、出席状況、見学状況、課題提出状況などの資料を基に総合的に判断する |
| 思考力<br>判断力<br>表現力 | 自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫している。   | 各学期末に所定の場所（体育館・グラウンド・地下体育館）で行う実技テストで到達度を確認する他、授業への取り組み、出席状況、見学状況、課題提出状況などの資料を基に総合的に判断する |
| 主体的に学習に取り組む態度     | 運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任などの態度を身に付けるとともに、健康・安全に留意して自ら運動をしようとする。  | 授業（単元）の目標到達における自己評価・他者評価の他、授業への取り組み、出席状況、見学状況、課題提出状況などの資料を基に総合的に判断する                    |

| 学年   | 教科   | 科目 | コース | 単位数 | 使用教科書・副教材      |
|------|------|----|-----|-----|----------------|
| 高校2年 | 保健体育 | 保健 | 共通  | 1   | 大修館書店「新高等保健体育」 |

| 教科・科目の概要と目標  | 学習方法と流れ   |
|--|---|
| <p>1. 多様化するライフスタイルの中で、生涯を通じいかに健康を維持し安全に過ごすことができるかを学ぶ。</p> <p>2. 個人及び社会生活における健康・安全についての理解を深める。</p> <p>3. 生活習慣病を理解し、より健康的なライフスタイルを身につける。</p> | <p>①本時の内容確認 → 講義・演習 → 本時のまとめ</p> <p>②授業には、教科書・ノート・配布プリントを用意しておくこと。</p> <p>③iPadをグループワーク・課題提出で使用する場合がある。</p> |

|           | 1学期始め～1学期中間   | 1学期中間～1学期期末  | 2学期始め～2学期中間   | 2学期中間～2学期期末   | 3学期始め～3学期期末  |
|-----------|---|--|---|---|--|
| 1年間の授業の進度 | <p>[1]思春期と健康</p> <p>[2]性意識の変化と性行動の選択</p> <p>[3]結婚生活と健康</p> <p>[4]妊娠・出産と健康</p> | <p>[5]家族計画</p> <p>[6]加齢と健康</p> <p>[7]高齢社会に対応した取り組み</p> | <p>[8]働くことと健康</p> <p>[9]労働災害の防止</p> <p>[10]働く人の健康づくり</p> <p>[1]大気汚染と健康</p> <p>[2]水質汚濁、土壌汚染と健康</p> | <p>[3]健康被害を防ぐための環境対策</p> <p>[4]環境衛生に関わる活動</p> <p>[5]食品の安全性と健康</p> <p>[6]食品の安全性を確保する取り組み</p> | <p>[7]保健制度とその活用</p> <p>[8]医療制度とその活用</p> <p>[9]医薬品の制度とその活用</p> <p>[10]様々な保健活動や対策</p> <p>[11]誰もが健康に過ごせる社会に向けた環境づくり</p> |

| 観点別評価             | 評価の観点   | 評価の方法   |
|-------------------|---|---|
| 知識技能              | 個人生活及び社会生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。 | ・定期考査   |
| 思考力<br>判断力<br>表現力 | 健康についての自他の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。      | ・定期考査<br>・記述を中心とした授業内課題、グループ発表、体験的活動などの取り組み状況を基に判断する        |
| 主体的に学習に取り組む態度     | 個人生活や社会生活における健康・安全に関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。               | ・ワークシートへの取り組み状況や内容<br>・グループワーク、個人ワークへの取り組み状況や内容などの資料を基に判断する |

| 学年   | 教科 | 科目  | コース | 単位数 | 使用教科書・副教材         |
|------|----|-----|-----|-----|-------------------|
| 高校2年 | 芸術 | 音楽I | 共通  | 1   | 高校生の音楽1・2 (教育芸術社) |

| 教科・科目の概要と目標  | 学習方法と流れ  |
|--|--|
| <p>自己のなかにある「自分ならではの感じ方」を見出し、それに自信をもって磨いてゆく姿勢を育む。</p> <p>歌唱 他者と発声を揃えて重唱する<br/>                     器楽 奏法の基礎を踏まえて、自己表現する<br/>                     鑑賞 音楽の歴史を踏まえて鑑賞する<br/>                     楽典 様々な楽譜を読み取り、表現できるようになる<br/>                     創作 曲作りのルールの中で、自分を表現する</p> | <p>音楽室にて行います。<br/>                     授業の始めに鑑賞を行い、その後各単元の学習に入ります。<br/>                     実技は</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・模範唱、模範奏を聴く</li> <li>・自分の力で挑戦する</li> <li>・仕組みを学ぶ</li> <li>・表現を考える</li> </ul> <p>の流れで展開し、音楽的な自立を目指します。</p> |

|           | I学期始め～I学期中間                                | I学期中間～I学期期末                            | 2学期始め～2学期中間  | 2学期中間～2学期期末   | 3学期始め～3学期期末          |
|-----------|--|--|--|---|----------------------|
| 1年間の授業の進度 | 重唱:アカペラでの重唱<br>ジャンルを踏まえた重唱<br><br>鑑賞:西洋音楽史 | 楽典:楽譜の読み取り<br>創作:BGm創作<br><br>鑑賞:西洋音楽史 | ギター:弾き歌い<br>独唱:フランス語の歌曲<br>「夢のあとに」<br><br>鑑賞:西洋音楽史 | ギター:コード奏<br>独唱:英語の歌<br>「Black bird」<br><br>鑑賞:西洋音楽史 | 独奏発表<br><br>鑑賞:西洋音楽史 |

| 観点別評価             | 評価の観点  | 評価の方法   |
|-------------------|--|---|
| 知識技能              | 自己の感性を働かせて、楽曲の文化・歴史的背景や音楽構造と曲想との関わりまた、その多様性について音楽活動を通して理解している。<br>自己の感性を働かせて音楽表現を創意工夫したり、自分の表現意図を音楽で表現したりするために必要な歌唱の技能・鑑賞の方法を身に付け、創造的に表している。 | 課題・内容により、「各課題終了後行う実技試験」・「提出物による理解度」をもとに総合的に評価する。                      |
| 思考力<br>判断力<br>表現力 | 自己の感性を働かせて表現の意図を持ち、表現方法を工夫している。<br>自己の感性を働かせて楽曲や演奏を解釈できる。<br>自己の生活において音楽の寄与するもの等も視野に入れながら、音楽のよさや美しさを創造的に味わって聴いている。                           | 課題・内容により、「各課題終了後行う実技試験」・「提出物による解釈表現の内容」・「鑑賞課題」終了後提出の「感想」をもとに総合的に評価する。 |
| 主体的に学習に取り組む態度     | 自己の感性を総動員して音楽活動の喜びを味わっている。<br>音や音楽を自己の生活や社会にも生かそうという姿勢で、主体的に歌唱、鑑賞の学習に取り組んでいる。  | 「各回授業内容に対する熱意・態度」・「振り返り」の仕方とその発展度・「課題の提出状況及び内容」・「出席状況」から総合的に判断する。     |

| 学年   | 教科 | 科目  | コース | 単位数 | 使用教科書・副教材 |
|------|----|-----|-----|-----|-----------|
| 高校2年 | 芸術 | 美術I | 共通  | 1   | 美術I(光村図書) |

| 教科・科目の概要と目標  | 学習方法と流れ   |
|--|---|
| <p>美術では「技術」の習得のみが重視されがちですが、「表現」も大切に学んでいきます。</p> <p>●技術<br/>                     平面 絵画・デザイン・版画など<br/>                     立体 彫塑・木工・金工・クラフトなど<br/>                     鑑賞 海外、日本、現在、過去、友人と古今東西の作品できるだけ多くの制作方法や素材に触れて、制作・鑑賞をします。</p> <p>●表現<br/>                     技術での制作や鑑賞を通して、「表現したいこと」に向かって自分がどう取り組んだか、また人はどう取り組んでいるのかを知ります。そもそも表現とは日常にあふれていることなので、日常生活や他の勉強の中で活かしていきます。</p> | <p>1：題材の設定の趣旨説明<br/>                     2：下書き、下絵の作成<br/>                     3：制作の決定<br/>                     4：彩色や質感の施し<br/>                     5：完成度の追求</p> |

|           | I学期始め～I学期中間   | I学期中間～I学期期末  | 2学期始め～2学期中間  | 2学期中間～2学期期末   | 3学期始め～3学期期末   |
|-----------|---|--|--|---|---|
| I年間の授業の進度 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●オリエンテーション</li> <li>●工芸                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・趣旨説明</li> <li>・アイデアスケッチ</li> <li>・下がり</li> </ul> </li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>●工芸                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・制作</li> </ul> </li> <li>●美術史</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>●油彩画                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・趣旨説明</li> <li>・アイデアスケッチ</li> </ul> </li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>●油彩画                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・下がり</li> <li>・制作（下塗り、基本の色をのせる）</li> </ul> </li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>●油彩画                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・制作（陰影、質感をつける）</li> <li>・鑑賞</li> </ul> </li> </ul> |

| 観点別評価             | 評価の観点   | 評価の方法  |
|-------------------|---|--|
| 知識技能              | 社会性のある、より専門的な知識・技能を培っている。<br>創造的な表現をするために材料・用具を生かして表現する技能を身に付けている。<br>美術的な知識を活かしながら美術作品を鑑賞する。 | 作品及び提出物や、日々の授業に取り組む姿勢を、以下の項目を中心に評価する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・狙い通りの描写ができてきているか。</li> <li>・材料、用具を生かす力があるか。</li> </ul>                                     |
| 思考力<br>判断力<br>表現力 | 日常の中で感性を働かせて美術のよさや美しさを感じ取り、豊かに発想し創造的に表現を工夫する。<br>作品から感じ取ったイメージを具体的な言葉で表現する。                   | 作品及び提出物を、以下の項目を中心に評価する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・発想力、構想力があるか。</li> <li>・意図した色を作り出すことができてきているか。</li> <li>・アイデアやイメージを表現できてきているか。</li> </ul>                 |
| 主体的に学習に取り組む態度     | 美術を愛好し、表現の主題や形式などに幅広く関心をもち、その喜びを味わおうとする。  | 作品及び提出物や、日々の授業に取り組む姿勢を、以下の項目を中心に評価する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・主題に興味を持って、意欲的に取り組んでいるか。</li> <li>・主題を最後まで作り上げる姿勢が見られるか。</li> <li>・提出期限が守られているか。</li> </ul> |

| 学年   | 教科 | 科目  | コース | 単位数 | 使用教科書・副教材      |
|------|----|-----|-----|-----|----------------|
| 高校2年 | 芸術 | 書道I | 共通  | 1   | 書道I・書道II(教育出版) |

| 教科・科目の概要と目標  | 学習方法と流れ  |
|--|--|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>書道Iは楷書、隸書を中心に、行書、仮名、篆書、篆刻の各書体を学び、基本技法、表現力、創造力、集中力を養う。</li> <li>書の楽しさ、美しさを体験し、表現力、創造力の向上を目指します。</li> <li>楷書、行書、隸書、仮名の技法を習得し、目的に応じた表現をしましょう。</li> <li>文字の美しさ、点や線、形、リズム、流れの美しさを理解し、表現しよう。</li> <li>古典を学習し、伝統的技法、芸術的創造力を養います</li> </ol> | <ol style="list-style-type: none"> <li>書道Iの学習は、単元内容の解説、鑑賞、学習、実習、練習、制作、評価の方法で行います。</li> <li>授業は、解説、鑑賞、学習、実習、臨書、創作、清書、提出、評価の流れで展開します。</li> <li>授業には、教科書、書道用具一式(紙・筆・硯・墨・下敷き・鉛筆)を用意して下さい。</li> </ol> |

|           | 1学期始め～1学期中間   | 1学期中間～1学期期末  | 2学期始め～2学期中間  | 2学期中間～2学期期末  | 3学期始め～3学期期末   |
|-----------|---|--|--|--|---------------|
| 1年間の授業の進度 | <ol style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーション</li> <li>書の芸術性と歴史</li> <li>書の美とは</li> <li>唐代の楷書「孔子廟堂碑・九成宮禮泉銘」</li> </ol> | <ol style="list-style-type: none"> <li>唐代の楷書「建中告身帖・雁塔聖教序」</li> <li>唐代の楷書「牛橛造像記・鄭義下碑」</li> <li>書道甲子園出品作品制作(小字数書創作)</li> </ol> | <ol style="list-style-type: none"> <li>藍桐祭作品制作</li> <li>隸書「曹全碑」</li> </ol> | <ol style="list-style-type: none"> <li>篆刻 名印・遊印制作</li> <li>行書「蘭亭序」「祭姪稿」</li> </ol> | 卒業制作 2年間の総まとめ |

| 観点別評価             | 評価の観点  | 評価の方法   |
|-------------------|--|---|
| 知識技能              | 日常生活における書の効用や日本及び中国等の書の文化などを理解し、書の実用性を確認しながら、美しさを創造的に味わう。<br>書写能力を高め、用具・用材を生かして表現する技能を身に付ける。 | 課題の提出物の仕上がりにより評価します。各課題の観点毎に古典に基づいた臨書の力を基準にします。                 |
| 思考力<br>判断力<br>表現力 | 感性を働かせて書の美しさを感じ取り、自らの意図に基づき構想し、創造的に表現を工夫する。  | 発想力や作品構成力のもと、自らの仕上がり具合を判断する力を評価します。課題の観点毎に墨色や流れを重視します。          |
| 主体的に学習に取り組む態度     | 書を愛好し、書の文化に関心をもち、意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとする。   | 授業への関心意欲、およびオンライン、オンデマンドにおける課題の提出状況などを評価します。<br>授業準備や教室整備なども含む。 |

| 学年   | 教科 | 科目           | コース                 | 単位数 | 使用教科書・副教材   |
|------|----|--------------|---------------------|-----|---|
| 高校2年 | 英語 | 英語コミュニケーションⅡ | S特選<br>(文系)<br>(理系) | 4   | CROWN English CommunicationⅡ<br>Smart Reader Standard / Viewpoint Advanced<br>DUO 3.0 |

| 教科・科目の概要と目標   | 学習方法と流れ  |
|---|--|
| <p>厳選されたマテリアルと適切なアプローチを用いて、英語習得に必要な基礎を確立させ、それを大学入試に対応できる力へと発展させていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『CROWN English CommunicationⅡ』『Smart Reader Standard』を読解し音読練習を積み重ねることで、速読力やリスニング力にまでつながる総合的な英語力を養う。</li> <li>『DUO 3.0』を用いてボキャブラリーとイディオムに関する知識を定着させる。英検…準1級を目指す。</li> </ul> | <p>『CROWN English CommunicationⅡ』『Smart Reader Standard』</p> <p>[予習] 教科書の本文を和訳する。問題を解く。</p> <p>[授業] 解説を聞き、正確な読み方を学ぶ。</p> <p>[復習] 音読練習を積み重ねることで、正確な読み方を自動化し、速読力へとつなげる。</p> <p>『DUO 3.0』、『全解説入試頻出英語標準問題1100』、『POWER STAGE』『Viewpoint Advanced』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自習用の教材として使用する。</li> </ul> <p>授業内、教材理解を把握する際、iPad内アプリを使用。</p> |

|           | 1学期始め～1学期中間  | 1学期中間～1学期期末   | 2学期始め～2学期中間   | 2学期中間～2学期期末   | 3学期始め～3学期期末  |
|-----------|--|---|---|---|--|
| 1年間の授業の進度 | CROWN II<br>Lesson 1～3 抜粋<br>Smart Reader Standard<br>Lesson 1-6 | CROWN II<br>Lesson 4～6 抜粋<br>Smart Reader Standard<br>Lesson 7-12 | CROWN II<br>Lesson 7～10 抜粋<br>Smart Reader Standard<br>Lesson 13-19 | Viewpoint Advanced<br>Part I<br>Smart Reader Standard<br>Lesson 20-27 | Viewpoint Advanced<br>Part II<br>Smart Reader Standard<br>Lesson 28-35 |

| 観点別評価             | 評価の観点   | 評価の方法          |
|-------------------|---|----------------|
| 知識技能              | 様々な話題についての英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けるとともにその背景にある文化などを理解している。 | 定期考査の成績による     |
| 思考力<br>判断力<br>表現力 | 多くのインプットを理論的に行うと同時に、それがアウトプットである表現力に結びつくよう努力している。               | 定期考査の成績による     |
| 主体的に学習に取り組む態度     | 総合的な英語力を高めるために、強い意志を持って学習に取り組み、日常の学習習慣を築くことができている。              | 小テスト、提出物、平常点など |

| 学年   | 教科 | 科目           | コース                | 単位数 | 使用教科書・副教材   |
|------|----|--------------|--------------------|-----|---|
| 高校2年 | 英語 | 英語コミュニケーションⅡ | I類<br>(文系)<br>(理系) | 4   | CROWN English CommunicationⅡ<br>Smart Reader Standard / Viewpoint Advanced<br>DUO 3.0 |

| 教科・科目の概要と目標  | 学習方法と流れ  |
|--|--|
| <p>厳選されたマテリアルと適切なアプローチを用いて、英語習得に必要な基礎を確立させ、それを大学入試に対応できる力へと発展させていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『CROWN English CommunicationⅡ』『Smart Reader Standard』を読解し音読練習を積み重ねることで、速読力やリスニング力にまでつながる総合的な英語力を養う。</li> <li>『DUO 3.0』を用いてボキャブラリーとイディオムに関する知識を定着させる。英検…2級取得を目指す。</li> </ul> | <p>『CROWN English CommunicationⅡ』『Smart Reader Standard』</p> <p>[予習] 教科書の本文を和訳する。問題を解く。<br/>[授業] 解説を聞き、正確な読み方を学ぶ。<br/>[復習] 音読練習を積み重ねることで、正確な読み方を自動化し、速読力へとつなげる。</p> <p>『DUO 3.0』、『全解説入試頻出英語標準問題1100』、『POWER STAGE』『Viewpoint Advanced』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自習用の教材として使用する。</li> </ul> <p>授業内、教材理解を把握する際、iPad内アプリを使用。</p> |

|           | 1学期始め～1学期中間  | 1学期中間～1学期期末   | 2学期始め～2学期中間   | 2学期中間～2学期期末   | 3学期始め～3学期期末  |
|-----------|--|---|---|---|--|
| 1年間の授業の進度 | CROWN II<br>Lesson 1～3 抜粋<br>Smart Reader Standard<br>Lesson 1-6 | CROWN II<br>Lesson 4～6 抜粋<br>Smart Reader Standard<br>Lesson 7-12 | CROWN II<br>Lesson 7～10 抜粋<br>Smart Reader Standard<br>Lesson 13-19 | Viewpoint Advanced<br>Part I<br>Smart Reader Standard<br>Lesson 20-27 | Viewpoint Advanced<br>Part II<br>Smart Reader Standard<br>Lesson 28-35 |

| 観点別評価             | 評価の観点   | 評価の方法          |
|-------------------|---|----------------|
| 知識技能              | 様々な話題についての英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けるとともにその背景にある文化などを理解している。 | 定期考査の成績による     |
| 思考力<br>判断力<br>表現力 | 多くのインプットを理論的に行うと同時に、それがアウトプットである表現力に結びつくよう努力している。               | 定期考査の成績による     |
| 主体的に学習に取り組む態度     | 総合的な英語力を高めるために、強い意志を持って学習に取り組み、日常の学習習慣を築くことができている。              | 小テスト、提出物、平常点など |

| 学年   | 教科 | 科目           | コース                | 単位数 | 使用教科書・副教材                               |
|------|----|--------------|--------------------|-----|---|
| 高校2年 | 英語 | 英語コミュニケーションⅡ | Ⅱ類<br>(文系)<br>(理系) | 4   | CROWN English CommunicationⅡ<br>DUO 3.0 |

| 教科・科目の概要と目標  | 学習方法と流れ   |
|--|---|
| <p>厳選されたマテリアルと適切なアプローチを用いて、英語習得に必要な基礎を確立させ、それを大学入試に対応できる力へと発展させていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『CROWN English CommunicationⅡ』を読解し音読練習を積み重ねることで、速読力やリスニング力にまでつながる総合的な英語力を養う。</li> <li>『DUO 3.0』を用いてボキャブラリーとイディオムに関する知識を定着させる。</li> </ul> <p>英検…準2級取得を目指す。</p> | <p>『CROWN English CommunicationⅡ』</p> <p>[予習] 教科書の本文を和訳する。問題を解く。<br/>[授業] 解説を聞き、正確な読み方を学ぶ。<br/>[復習] 音読練習を積み重ねることで、正確な読み方を自動化し、速読力へとつなげる。</p> <p>『DUO 3.0』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自習用の教材として使用する。</li> </ul> <p>授業内、教材理解を把握する際、iPad内アプリを使用。</p> |

|           | 1学期始め～1学期中間            | 1学期中間～1学期期末            | 2学期始め～2学期中間            | 2学期中間～2学期期末            | 3学期始め～3学期期末             |
|-----------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|-------------------------|
| 1年間の授業の進度 | CROWN II<br>Lesson 1～2 | CROWN II<br>Lesson 3～4 | CROWN II<br>Lesson 5～6 | CROWN II<br>Lesson 7～8 | CROWN II<br>Lesson 9～10 |

| 観点別評価             | 評価の観点   | 評価の方法          |
|-------------------|---|----------------|
| 知識技能              | 様々な話題についての英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けるとともにその背景にある文化などを理解している。 | 定期考査の成績による     |
| 思考力<br>判断力<br>表現力 | 多くのインプットを理論的に行うと同時に、それがアウトプットである表現力に結びつくよう努力している。               | 定期考査の成績による     |
| 主体的に学習に取り組む態度     | 総合的な英語力を高めるために、強い意志を持って学習に取り組み、日常の学習習慣を築くことができている。              | 小テスト、提出物、平常点など |

| 学年   | 教科 | 科目     | コース                 | 単位数           | 使用教科書・副教材   |
|------|----|--------|---------------------|---------------|---|
| 高校2年 | 英語 | 論理・表現Ⅱ | S特選<br>(文系)<br>(理系) | S特<br>(日2/ネ1) | S特 Power Stage/ 『Training Book <Advanced>』<br>Steady Steps for writing<br>ネイティブライティング教材 factbookⅡ |

| 教科・科目の概要と目標   | 学習方法と流れ  |
|---|--|
| <p>Autonomous Learning (自律学習) を習慣化していく。<br/>厳選されたマテリアルと適切なアプローチを用いて、英文法を定着させ、それを大学入試に対応できる力へと発展させていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『Power Stage』を用いて、英文法の基礎的・総合的な力を養う。</li> <li>『Training Book &lt;Advanced&gt;』を用いて、大学入試に対応できる文法・語法・イデオムの素地を養う。</li> </ul> | <p>『Training Book &lt;Advanced&gt;』</p> <p>[予習] 自分の力で問題を解いてくる。<br/>[授業] 解説を聞き、英文法の仕組みを学び、入試で問われる出題形式に慣れる。<br/>[復習] 間違えた問題を重点的に解き直すことで、英文法を定着させる。</p> <p>『Power Stage』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自習用の教材として使用する。</li> <li>・朝テストで定期的に出題する。また定期考査にも出題し、反復練習を促す。</li> </ul> <p>『factbookⅡ』についての学習の仕方は、初回授業時に説明する。</p> |

|           | 1学期始め～1学期中間  | 1学期中間～1学期期末   | 2学期始め～2学期中間  | 2学期中間～2学期期末   | 3学期始め～3学期期末  |
|-----------|--|---|--|---|--|
| 1年間の授業の進度 | S特<br>Training Book<br>第1～3回<br>Steady Steps for Writing<br>第1～3章 時制 | S特<br>Training Book<br>第4～6回<br>Steady Steps for Writing<br>第4～6章 助動詞・条件<br>パラグラフライティングへ① | S特<br>Training Book<br>第7～10回<br>Steady Steps for Writing<br>第7～10章 態・不定詞・動名詞<br>パラグラフライティングへ② | S特<br>Training Book<br>第11～14回<br>Steady Steps for Writing<br>第11～13章 分詞・関係詞<br>パラグラフライティングへ③ | S特<br>Training Book<br>第15～17回<br>Steady Steps for Writing<br>第14～15章 比較・否定<br>パラグラフライティングへ④ |

| 観点別評価             | 評価の観点   | 評価の方法                       |
|-------------------|---|-----------------------------|
| 知識技能              | 様々な話題についての英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けるとともにその背景にある文化などを理解している。 | 定期考査                        |
| 思考力<br>判断力<br>表現力 | 多くのインプットを理論的に行うと同時に、それがアウトプットである表現力に結びつくよう努力している。               | 定期考査                        |
| 主体的に学習に取り組む態度     | 総合的な英語力を高めるために、強い意志を持って学習に取り組み、日常の学習習慣を築くことができている。              | 提出物(課題など) および平常点(授業へ取り組む姿勢) |

| 学年   | 教科 | 科目     | コース                | 単位数     | 使用教科書・副教材  |
|------|----|--------|--------------------|---------|--|
| 高校2年 | 英語 | 論理・表現Ⅱ | I類<br>(文系)<br>(理系) | (日2/ネ1) | Power Stage/ 『Training Book <Advanced>』<br>Steady Steps for writing<br>ネイティブライティング教材 factbookⅡ |

| 教科・科目の概要と目標   | 学習方法と流れ  |
|---|--|
| <p>Autonomous Learning (自律学習) を習慣化していく。<br/>厳選されたマテリアルと適切なアプローチを用いて、英文法を定着させ、それを大学入試に対応できる力へと発展させていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『Power Stage』を用いて、英文法の基礎的・総合的な力を養う。</li> <li>『Training Book &lt;Advanced&gt;』を用いて、大学入試に対応できる文法・語法・イデオムの素地を養う。</li> </ul> | <p>『Training Book &lt;Advanced&gt;』</p> <p>[予習] 自分の力で問題を解いてくる。<br/>[授業] 解説を聞き、英文法の仕組みを学び、入試で問われる出題形式に慣れる。<br/>[復習] 間違えた問題を重点的に解き直すことで、英文法を定着させる。</p> <p>『Power Stage』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自習用の教材として使用する。</li> <li>・朝テストで定期的に出題する。また定期考査にも出題し、反復練習を促す。</li> </ul> <p>『factbookⅡ』についての学習の仕方は、初回授業時に説明する。</p> |

|           | 1学期始め～1学期中間  | 1学期中間～1学期期末   | 2学期始め～2学期中間  | 2学期中間～2学期期末   | 3学期始め～3学期期末  |
|-----------|--|---|--|---|--|
| 1年間の授業の進度 | Training Book<br>第1～3回<br>Steady Steps for Writing<br>第1～3章 時制 | Training Book<br>第4～6回<br>Steady Steps for Writing<br>第4～6章 助動詞・条件<br>パラグラフライティングへ① | Training Book<br>第7～10回<br>Steady Steps for Writing<br>第7～10章 態・不定詞・動名詞<br>パラグラフライティングへ② | Training Book<br>第11～14回<br>Steady Steps for Writing<br>第11～13章 分詞・関係詞<br>パラグラフライティングへ③ | Training Book<br>第15～17回<br>Steady Steps for Writing<br>第14～15章 比較・否定<br>パラグラフライティングへ④ |

| 観点別評価             | 評価の観点   | 評価の方法                       |
|-------------------|---|-----------------------------|
| 知識技能              | 様々な話題についての英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けるとともにその背景にある文化などを理解している。 | 定期考査                        |
| 思考力<br>判断力<br>表現力 | 多くのインプットを理論的に行うと同時に、それがアウトプットである表現力に結びつくよう努力している。               | 定期考査                        |
| 主体的に学習に取り組む態度     | 総合的な英語力を高めるために、強い意志を持って学習に取り組み、日常の学習習慣を築くことができている。              | 提出物(課題など) および平常点(授業へ取り組む姿勢) |

| 学年   | 教科 | 科目     | コース                | 単位数 | 使用教科書・副教材  |
|------|----|--------|--------------------|-----|--|
| 高校2年 | 英語 | 論理・表現Ⅱ | Ⅱ類<br>(文系)<br>(理系) | 3   | Ⅱ類『精選 英文法・語法問700』Vintage<br>Steady Steps for writing |

| 教科・科目の概要と目標  | 学習方法と流れ  |
|--|--|
| <p>Autonomous Learning (自律学習) を習慣化していく。<br/>厳選されたマテリアルと適切なアプローチを用いて、英文法を定着させ、それを大学入試に対応できる力へと発展させていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『標準 英文法・語法問題700』を用いて、英文法の基礎的・総合的な力を養う。</li> <li>『Vintage』を用いて、大学入試に対応できる文法・語法・イディオムの素地を養う。</li> </ul> | <p>『標準 英文法・語法問題700』</p> <p>[予習] 自分の力で問題を解いてくる。<br/>[授業] 解説を聞き、英文法の仕組みを学び、入試で問われる出題形式に慣れる。<br/>[復習] 間違えた問題を重点的に解き直すことで、英文法を定着させる。</p> <p>『Vintage』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自習用の教材として使用する。</li> <li>・朝テストで定期的に出題する。また定期考査にも出題し、反復練習を促す。</li> </ul> <p>*専任日本人教師が英文法の授業を丁寧に説明する。<br/>※予定より早く終わった場合には、適時副教材を新たに導入していく</p> |

|           | 1学期始め～1学期中間             | 1学期中間～1学期期末              | 2学期始め～2学期中間               | 2学期中間～2学期期末               | 3学期始め～3学期期末               |
|-----------|-------------------------|--------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|
| 1年間の授業の進度 | 『標準 英文法・語法問題700』<br>1～4 | 『標準 英文法・語法問題700』<br>5～10 | 『標準 英文法・語法問題700』<br>11～15 | 『標準 英文法・語法問題700』<br>16～19 | 『標準 英文法・語法問題700』<br>20～25 |

| 観点別評価             | 評価の観点   | 評価の方法                       |
|-------------------|---|-----------------------------|
| 知識技能              | 様々な話題についての英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けるとともにその背景にある文化などを理解している。 | 定期考査                        |
| 思考力<br>判断力<br>表現力 | 多くのインプットを理論的に行うと同時に、それがアウトプットである表現力に結びつくよう努力している。               | 定期考査                        |
| 主体的に学習に取り組む態度     | 総合的な英語力を高めるために、強い意志を持って学習に取り組み、日常の学習習慣を築くことができている。              | 提出物(課題など) および平常点(授業へ取り組む姿勢) |

| 学年   | 教科 | 科目   | コース | 単位数 | 使用教科書・副教材                                 |
|------|----|------|-----|-----|---|
| 高校2年 | 情報 | 情報 I | 共通  | 2   | 高校情報 I Python(実教出版)<br>ベストフィット情報 I (実教出版) |

教科・科目の概要と目標

学習方法と流れ

情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するために資質・能力を育成することを目指します。

1. 情報社会に主体的に参画するため、法規や制度及びマナーを守ろうとする態度、情報セキュリティの知識や情報モラルを養うことを目指します。
2. 適切なコミュニケーションの実現のため、情報デザインやメディアの特徴を身に着けます。
3. 情報技術の科学的な理解のため、情報のデジタル化や、コンピュータの構成、ネットワーク及びデータベースの活用などを学びます。
4. 問題の発見及び解決のため、分析の方法やモデル化とシミュレーション、プログラミングの基礎を身に着けます。

- ① 本時の内容確認 → 講義・演習・実習 → 本時のまとめ・片付け
- ② 授業には、教科書・配布プリント・ファイル・iPadを用意しておくこと。
- ③ 実習は示された手順や注意点を遵守し、創意工夫をもって臨むこと。
- ④ 課題や実習などの取り組み状況及び提出状況は、平常点の一部として評価する。

|           | 1学期始め～1学期中間  | 1学期中間～1学期期末  | 2学期始め～2学期中間   | 2学期中間～2学期期末  | 3学期始め～3学期期末   |
|-----------|--|--|---|--|---|
| 1年間の授業の進度 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○情報社会                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報と情報社会</li> <li>・個人情報</li> <li>・知的財産権</li> </ul> </li> <li>○情報デザイン                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションとメディア</li> </ul> </li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○情報デザイン                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・Webページと情報デザイン（実習を含む）</li> </ul> </li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○デジタル                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・アナログとデジタル</li> <li>・情報のデジタル化</li> <li>・コンピュータの構成と動作及び性能</li> </ul> </li> <li>○ネットワーク                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ネットワークとプロトコル</li> <li>・インターネットの仕組み</li> </ul> </li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ネットワーク                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報システムとデータベース</li> <li>・情報セキュリティ</li> </ul> </li> <li>○問題解決                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・データの収集と整理</li> <li>・ソフトウェアを利用したデータ処理</li> </ul> </li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○問題解決                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・データの分析</li> <li>・モデル化とシミュレーション</li> </ul> </li> <li>○プログラミング                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・アルゴリズムとプログラミング</li> <li>・プログラミング実習</li> </ul> </li> </ul> |

| 観点別評価             | 評価の観点  | 評価の方法  |
|-------------------|--|--|
| 知識技能              | 情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し、技能を身に付けているとともに、情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりについて理解している。 | 学期末考査、実習課題の完成度、及び提出物をもとに総合的に評価する。  |
| 思考力<br>判断力<br>表現力 | 事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。                                     | 学期末考査、実習課題の完成度、授業内発表、及び提出物をもとに総合的に評価する。                                      |
| 主体的に学習に取り組む態度     | 情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。                            | 授業への取り組み、実習課題への意欲（作品に取り組む態度、期日に向けての計画性）、及び授業内発表についての自己評価、及び相互評価をもとに総合的に評価する。 |